



2018 2018.1.1▶2018.12.31

医療法人 セント・ルカ  
セント・ルカ産婦人科  
セント・ルカ生殖医療研究所

# 目 次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 卷頭言                             | 1  |
| 新任挨拶                            |    |
| 医 局                             | 3  |
| 一年を振り返って                        |    |
| 医 局                             | 5  |
| 看護部                             | 6  |
| 研究室・培養室                         | 8  |
| 受 付                             | 9  |
| 情報処理室                           | 10 |
| 厨 房                             | 11 |
| 診療統計                            |    |
| 開院から2018年までの成績                  |    |
| 当院の患者数・妊娠に至った主たる有効治療            | 14 |
| 妊娠の転帰・出産結果                      | 15 |
| 初診後妊娠までの期間                      | 16 |
| 不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断            | 16 |
| 腹腔鏡検査後妊娠までの期間                   | 16 |
| IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率        | 17 |
| ART(生殖補助医療／体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠 | 17 |
| 35歳未満・体外受精1回目の妊娠率               | 17 |
| 妊娠数                             | 18 |
| 2018年一年間の成績                     |    |
| 外来患者数・初診患者数                     | 20 |
| 手術・入院数                          | 21 |
| 妊娠の内訳(妊娠に至った主たる有効治療・妊娠の転帰)      | 22 |
| 出産結果・異常児の詳細                     | 23 |
| ART(生殖補助医療)による妊娠                | 24 |
| ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況       | 24 |
| 不妊治療費助成金申請内訳                    | 25 |
| セント・ルカ産婦人科 一年のあゆみ               | 28 |
| 行事一覧                            | 29 |
| 論文一覧                            | 37 |
| セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明           | 38 |
| スタッフ配置                          | 42 |
| 病院概要                            | 43 |

# 卷頭言

宇津宮 隆史

平成から令和に元号が変わった。当院でもスタッフの構成に変化があり、医局は2名が入局し、4名体制になった。これで滞りがちでクレームの多かった診察時間もスムーズに進むようになることが期待でき、医局からの研究、学会発表が活発になると思われる。また、看護部に4名、ラボに1名、受付にも1名が入職し、スタッフの約2割が新人となった。特に医局、看護部は新人教育が大変かと思うが、新しいスタッフは、他にはない生殖医療というユニークな、世代を超えた、かつ倫理問題も多々ある、しかも最先端の医療を、当院の理念を十分に理解し、患者にとって本当に大切なことを提供していくことを目指してほしい。いたずらに耳触りのよい言葉で無駄な時間をかけるのではなく、患者の背景、経歴、実態(特に不妊歴、年齢)をかんがみ、生殖医療の最新の知見と当院の成績に裏打ちされた専門家として、的確な指導を心掛けてほしい。当院は患者に専門クリニックとしての責任を持たねばならない。

新しく参加してくれた医局の古川先生は中津市民病院の部長、伊東先生は福岡大学の講師を経験し、両人とも学位、留学経験もあり、十分な経験で楽しみである。今まで医局からの発信が少なかったが、この4人の医局のチームワークで新たなテーマと実績を求めていき、令和の改元と共に当院も新たな体制でのステップアップにしたい。

また、当院に入職したのちに社会人博士課程などで学位を取得したものは、工学博士2名、医学博士2名、農学博士2名、看護学博士1名と合計7名に及び、仕事をしながら家庭では主婦業、子育てに加え、さらに研究、スクーリングをこなし、学位を取得することの大変さを考えると、その努力する姿勢に頭が下がる。その成果は日々の臨床に役立っているが、ラボには現在9名が在籍しており、今年入った新人1名を除いて平均勤続年数18年である。胚培養士は全国に1,362名おり、そのうちの7名、またその上に立つ管理胚培養士は全国に22名であるが、そのうち3名が当院に在籍している。また、看護学で実績を上げた元職員の實崎美奈は今年、産業医科大学の教授を拝命した。

これらの喜ばしい結果はそのまま臨床において患者に還元する責務があり、それが完結して初めて誇れるものとなろう。

医療の世界はこの1~2年で革命的に変わることが期待される。それには遺伝医学の進展が寄与しており、すでに癌領域ではいわゆる Precision Medicine と言える分子標的治療が多く実績を上げ始めている。これらにはITの発展が基礎にあり、量子コンピューターが実用化されればさらに進歩すると思われる。生殖医療の分野でも、日本は世界には遅れたが、PGT-A(着床前胚異数性検査)が実用化されようとしている。これには倫理問題が大きく存在し、慎重に検討を重ねてきたが、厳格な制度の下、パイロット試験を行い、その結果、衝撃的な成績が得られた。特に、今までの海外からの報告に比較し、今回の成績はかなり良いと思われ、これは PGT-Aにおいても日本で行えば大きな期待が持てる方法であることが実証されたと思う。これらの技術を患者のために用いるには、さらに有効な手段を考慮しなければならない。その精度、安全性、経済的効果、生まれてくる児の健康度、アクセス方法など考えねばならない。できれば AMED(日本医療研究開発機構)の「ARTで生まれた児の長期予後調査」のようにしっかりした組織で行うことが望ましい。

ヒト卵管内液組成解析に基づいた新しい日本で開発された胚培養液「HiGROW OViT」は相変わらず良好

な成績を上げている。常に10%前後胚盤胞到達率が高く、妊娠率も高い。これは10年以上にわたる日本卵子学会と扶桑薬品工業株式会社の共同開発での成果であり、今や広く海外、特にESHRE領域に販路を拡大しようとしている。当院と扶桑薬品から毎年、ESHREとASRMでその成績を発表している。本年度中には他施設RCTの結果が報告できると思う。PGT-Aパイロット研究の結果で感じたように、日本が行えば、立派な成績が期待でき、OVITもそれにたがわないと思う。

生殖医療における問題、特に不妊患者の経済は、昨年、NPO法人Fineが報告したように、ARTの費用(価格)が上昇して、50万円を超えたと答えた患者が2010年に比べ、2.5倍に増加しているとのことで、助成金の制度に再考が必要となっている。

「会社帰りに採卵し」、「会社帰りに胚移植する」をうたい文句に妊娠効率の悪い低刺激ARTが横行し(なんと美容外科がマニュアルでARTを行っている!!)、採卵すれば助成金で貯われている。その結果、今や世界一ART回数が多く、世界一挙児成功率の低い不名誉な国になっている。初めから低刺激ARTを行っているクリニックは調節刺激ARTの経験がない。よって低刺激と調節刺激の妊娠率の比較ができず、低刺激ARTがいかに効率の悪い方法であるか自覚がない。採卵時間一人3~4分、卵子1~2個か、0個が多い低刺激でも費用は35万円(週刊ダイヤモンドより)とのことで、それに対しても多額の助成金(400億円以上)が支払われている。低刺激ARTの治療開始あたりの妊娠率は4%である。我々の調節刺激ARTでは30~40%となっている。患者に効率の良い治療をし、限りある助成金の有効利用には調節刺激ARTが基本である。さらにがん・生殖医療や、PGTで求められている効率よく良好胚を多数得る方法としては、調節刺激でなければならず、いたずらに採卵回数が増える低刺激は最も効率の悪い方法といえよう。ART、および助成金の制度設計の変更がなされねばならない時期に来ていると思う。

遺伝医療分野では臨床医療においても臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーの陪席が厳格に求められている。このように、生殖医療においても、少なくとも生殖医療専門医が必須であるとか、母体は産婦人科でなければならないとか、胚培養士や公認心理師などの有資格者の在籍を必須とするなど、大掛かりな制度設計を再構築する時期かと思う。今後はPGT-Aも盛んになると思われ、それにかかる費用も増加する。日本でARTが始まって35年、今では年間数百億円といわれている助成金交付の制度が発足して15年、いまが再考する時期であろう。

別府平和園は近藤邦子園長の指揮の下、45名のスタッフの働きにより、約40名の子どもたちが平和に育っている。昨今の色々なニュースにみられるように、生活、生育に困窮する子どもが増加しており、この傾向は収束する様子はない。それに対して、里親制度やグループ・ホームなどがいわれているが、それらも子どもにとってはやはり第2の故郷であろう。またその計画も、その理念はともかく、国家予算の点から推進されている面もある。世の中が便利になっていくように見えて様々な思いがけない亀裂が起こっていることと合わせてみれば、これも基本的には「教育」の問題ではなかろうかと思う。国は文科系学部の縮小を考えていることであるが、それは大きな損失につながる恐れがある。将来大人になった時にきちんと子どもを育てられるように、子どもを今から教育しなければならない。その意味で生殖医療でも夫婦の関係性まで視野に入れて診療を行う必要がある。

平和園は全国に先駆けて小倅制をとってきた。その理念は今でも褪せることはない。しかし世の中の流れによって、その理想としてきた手段、方法を変更せざるを得ないこともある。その傾向は今後さらに進むと思われる。その都度、平和園開園時の基本理念に立ち返りながら柔軟に対応する姿勢が求められる。今後も皆様の温かいご支援をお願い致します。

# 新 任 挨 捶

医 局

伊 東 裕 子

2019年4月に福岡大学医学部産婦人科よりセント・ルカ産婦人科へ参りました伊東と申します。別府市出身で大分上野丘高校、福岡大学卒業後、大分医科大学（現大分大学医学部）宮川勇生大分大学名誉教授の産婦人科に入局しました。生殖内分泌、腫瘍、周産期と幅広い産婦人科の臨床についてゼロからご指導いただき、大学院では樋原久司教授、奈須家栄教授のもと子宮内膜および卵管、子宮内膜症に関する研究を行いました。

2006年に医学博士取得、その後福岡大学へ入局、2009年から米国テキサス大学産婦人科の Ann Word 教授（樋原久司教授の20数年前留学時の元同僚でテキサス生まれテキサス育ちの豪快な CowGirl）の研究室で子宮および子宮内膜症の研究を3年間行つてきました。アメリカ南部訛りの英語には四苦八苦でしたが、Ann 教授のご指導のもと世界8ヵ国からの同僚とともに日々楽しく過ごしながら、ラボの3名の技師さんが几帳面で丁寧に（！）手伝ってくれたおかげもあって、子宮内膜と子宮内膜症のそれぞれの研究を論文に仕上げることが出来ました。米国の研究室はお金もあって技師もいて本当に環境がよく、臨床の片手間に研究を行う日本との違いを感じました。

帰国後は福岡大学にて宮本新吾教授のもと研究と臨床を行つてきました。福岡大学病院は福岡県の総合周産期母子医療センターでもあり、婦人科や不妊患者だけでなく様々なハイリスク妊娠も診ます。多胎妊娠や子宮筋腫合併妊娠、卵子提供妊娠については生殖医療と切り離せないことから、データを取り検討を行つてきました。大学当直のときは朝まで寝られたらラッキーなくらい、いつも何らかのイベントがあり、研修医たちには嫌がっていたかもしれません。しかしながら、母体と胎児を守ることは産婦人科の使命であり、その尊さを肌で感じた新人たちは皆感銘を受けていました。これらのことから生殖内分泌に携わる身として、やはり妊娠は元気な赤ちゃんと元気なお母さんが揃って一緒に退院できるようにという思いを強くしました。女性の社会進出や晩婚化による妊娠の高齢化は仕方ないことなのかもしれません、これ以上のリスクを増やさないように糖尿病や高血圧症、子宮筋腫など基礎疾患のある方や肥満症、喫煙者などに対する指導も不妊治療の一環として積極的に行ってきました。今後、生殖医療を専門に行っていく中で、引き続き安全な不妊治療と妊娠・分娩に繋がるよう、一人ひとりに合った診療を心がけて参りたいと思います。

よろしくお願い申し上げます。

# 新 任 挨 捶

## 医 局

古川 雄一

2019年4月に入職しました古川雄一と申します。私のこれまでの経験について書きたいと思います。

私は大分生まれ、大分育ちの生粋の大分人です。医師のキャリアとしては、2002年に当時の大分医科大学(現大分大学医学部)産科婦人科学教室に研修医として入局し、主に大分県内の病院で研修して参りました。私は手術を通じて患者さんの助けになりたいという思いがあり、医学部に入学しました。学生時代に様々な科の手術を見学する中で、特に帝王切開術に感動して産婦人科医になること決めました。

その後、大学病院で腫瘍、産科、生殖内分泌を順番に研修していくうちに考えは変わっていき、学生時代は大の苦手であった生殖内分泌が大変面白いと思うようになりました。大学院では生殖内分泌に関連した研究、着床現象における子宮内膜の役割について研究しました。大学院を卒業しても生殖内分泌への興味は増すばかりで、これを専門にしていこうと心に決めました。同時に、その頃から婦人科領域で腹腔鏡手術の適応がどんどん拡大されていくようになり、腹腔鏡手術に強い興味を持ちました。その後、各勤務先で腹腔鏡手術の症例数を重ねていき、標準的な手技を身につけることができました。

そして、ちょうど私が大学院を卒業した頃に産婦人科医不足のあおりを受け、中津市民病院でお産が出来なくなるという事態になりました。大分県と大分大学の産科婦人科学教室が協力してこれを支援する事業を開始し、私も手を挙げ、その一端を担うことになりました。大分県民として大分の医師不足に微力ながら貢献できたことにやりがいを感じました。

次に、学生時代から漠然と考えていた研究留学の夢を実現する時がきました。留学先は米国シカゴのノースウエスタン大学医学部産婦人科でした。子宮内膜症の世界的権威である Bulun 教授の下で、正常部位の子宮内膜と子宮内膜症の関連についての研究を2年ほど行いました。海外生活はなかなか大変でしたが、そのおかげもあってか家族の絆は強くなったように思います。

帰国後は、今度は部長として中津市民病院に赴任しました。部長として働くことの大変さを経験するとともに地域医療に貢献できるというやりがいを感じることができる良い病院でした。しかし一方で、専門としてやっていきたい生殖内分泌に関われる時間が少ないという不満が出て来て、いつかは生殖医療専門の病院で働きたいと考えるようになりました。

特に、私のを目指す目標である生殖医療、腹腔鏡手術、地域医療、全てを満たす病院がすぐ近くにあり、ご縁があってセント・ルカ産婦人科で勉強させていただくことになりました。

これからは大分の地で不妊に悩むご夫婦の助けになれればと思います。

よろしくお願ひいたします。

# 一年を振り返って

医局

甲斐 由布子

いよいよ令和の時代が始まりました。今年2回目のお正月を迎えた様に明るい雰囲気で改元を迎え、日本が全体的に新たな気持ちで生活がスタートしたようです。

この一年間の当院の大きなトピックスとしては、やはり着床前診断パイロットスタディでしょう。約2年間をかけて段階的に準備を進め、適応となる患者さんに参加していただきました。2018年末にまとめられた結果では、胚盤胞まで到達し染色体検査を行えた7割が染色体異常であったということです。しかし残り3割の染色体正常の胚を移植できれば、着床率は約7割であったと報告されています。この結果は各社マスコミで報道されました。

当院から研究に参加した患者さんでも、無事妊娠し当院を卒業できた方がいらっしゃいました。また、長年の不妊治療を終結する決意ができなかったものの、染色体検査まで到達できた胚がすべて異常であったことから、治療を終結できた方もいらっしゃいました。今後は施設認定による着床前検査が行われる予定です。妊娠困難な方が妊娠・出産に至るための一つの検査方法としてはもちろん、原因がわからないまま長期化した不妊治療の終結を後押しし、ご夫婦二人での生活や養子縁組など新しい人生の選択肢を示す方法としても、着床前検査は有用になる可能性があります。

また、当院の役割の一つとして、妊娠を希望される方のメンタルサポートがあると思います。現在大分県の産科施設では、小児科・精神科・行政と連携した「大分トライアル」という取り組みで、全国的にもいち早くメンタルハイリスク妊娠婦のサポートに取り組んでいます。当院での不妊治療を希望される患者さんの中にも、精神科・心療内科通院の既往歴があったり、既往は無くともメンタルサポートが必要と思われる方がいらっしゃいます。不妊治療中は「妊娠がゴール」と考えがちで、精神科や心療内科受診をお勧めしても「妊娠さえできれば気分は落ち着く」と訴えられることも多く、うまく精神科・心療内科の受診へ繋げられないもどかしさを感じることが最近増えてきた気がします。私自身、体外受精から妊娠・出産を経験し子育て中であり、不妊治療は決して妊娠がゴールではないことを伝えていきたい気持ちが大きくなっています。当院卒業後の妊娠自殺や児童虐待、育児放棄の予防のためにも、心理士の先生や看護部と連携し、不妊治療中のメンタルサポートにも取り組んでいけたらと思います。

平成4年に開業した当院も、今年で27年目を迎えました。医局でも4月から診療体制が少し変化しています。

新たな時代に一人でも多く幸せなお子さんやご夫婦を送り出せるよう、各部署連携し頑張って参りたいと思います。

# 一年を振り返って

## 看護部

松土 留美

2019年、新緑の綺麗な5月に天皇陛下の即位の儀があり、30年間の平成の時代に幕を下ろし、令和という新しい時代が始まりました。

平成の始まりと共に小学校を巣立ち、青春時代を謳歌し、あっという間に過ぎ去っていった30年、感慨深いものがあります。新しい時代に今後の希望を胸にいだき、仕事に子育てにアクティブに挑んでいきたいと思います。

この一年を振り返ってみると、県外への研修会やJISART施設認定審査などに参加させていただき、学びの一年だったと思います。2月のJISART審査員研修では審査の流れや難しさを学び、10月にオブザーバーとして参加した施設認定審査では、審査の流れの速さに戸惑いを感じ、そして11月は、実際に審査員として施設認定審査に参加しました。主観を入れずに実施規定に沿って審査を行っていく大切さを学びました。また、外部の先生やコメディカルの方々とお会いし、お話する機会を頂き、施設の特色や患者支援に必要な事などの情報を得る事が出来、貴重な時間を過ごさせていただきました。

当院では、毎日、沢山の患者さんが来院しています。患者数が多くなると必然的に待ち時間が長くなりますが、JISARTの施設認定審査の中でも患者さんの満足度調査があり、良い評価を頂いたものの、やはり「待ち時間が長い」、「仕事との両立に悩む」などの声が挙がっていました。そこで、スタッフから予約システムの変更アイディアが持ち上がり、7月から予約システムの変更が実施され、待ち時間の問題も幾分解消されたように感じます。患者さんと接する時間が短い中で、患者さんの不安や悩みを引き出し、しっかり患者さんに向き合い、的確なアドバイスが出来るよう、生殖医療相談士を中心にスタッフ間で情報を共有し1人でも多くの患者さんが通院しやすい環境を提供できるように精進していきたいと思います。

今年、院長は臨床遺伝専門医を取得されました。当院でも遺伝についての勉強が始まり、難しい知識を習得する為に奮闘しています。遺伝的な疾患を持っている患者さんや流産を繰り返す患者さんのサポートを行うには、高度な知識や技術の習得が必要です。何度も繰り返し学習するしかないとは思いますが、これだけは完璧と、一つでも自分の物にしたいと思います。

私自身は、入職して12年が経ちました。セント・ルカセミナーや研修会など沢山の貴重な経験をさせていただきました。勤続年数も長くなり、たくさんのスタッフが入職してきました。院長の「上の姿勢を見て下が育つ」と言う言葉に自分自身がどれだけ成長でき、後輩たちの良いモデルになっているのだろうか？患者さんやスタッフに対する配慮は出来ているのか？と、日々悩みながら仕事に奮闘してきました。振り返ると後輩の発想に感動し、納得することが多くなってきたように感じます。

一年の振り返りを考えていくうちに、患者さんが安心し納得して次のステップへ進めるように援助する事も重要ですが、次世代を担う後輩たちの発想を大切にし、新しいものを取り入れながらも、当院の良い所や伝統を伝えていく重要な立場になってきつつあるのだと実感し、頑張っていきたいと思います。

# 一年を振り返って

## 看護部

亀井 里砂

私がセント・ルカに入職して12年が過ぎました。2007年に20代前半で入職しましたが、入職したばかりの頃は、仕事をなかなか覚えることができず、続けることができるのかと悩み考えました。12年間も続けてこられたのは、院長や事務長をはじめ、先輩方が温かく見守り声を掛けて指導してくださったお陰です。

それからもう一つ、職場の環境が良いことも続けてこられた理由でもあります。看護部は人間関係が良く、先輩方に相談しやすく働きやすい為、勤続年数が長い人が多いのが特徴です。働きやすい環境だからこそチームワークがよく一致団結して患者さんにより良い医療が提供できるのではないかと思います。

12年間働く中で、プライベートでは結婚、出産と人生の大きな転機がありました。妊娠中の大変さ、出産の感動、育児、その体験全てが今の看護師の仕事に直結できていると考えます。その経験を活かし、患者さんの気持ちが理解できる看護師でありたいと思います。仕事と子育ての両立は、思ったよりも大変ですが、家族の協力と職場の理解があるお陰で両立することができ、毎日充実して働くことができています。

仕事の面で私が一番奮闘したことは、国内の学会発表に参加させていただいたことです。発表内容は、「排卵誘発剤の自己注射に対する夫婦間の意識調査～配偶者(夫)による排卵誘発剤の自己注射を推奨して～」というものでした。患者さんの中には配偶者が治療に協力的ではないと悩む方がいる為、自己注射を配偶者に推奨することが夫婦間で治療を共有するきっかけになったと考えます。当院の方針「夫婦揃って治療に臨む」ことの重大さが改めて分かりました。人前で話すことが苦手な為、発表には不安でしたが先輩方のご指導のお陰で無事に終えることができました。

発表内容を論文にするよう声を掛けさせていただいた時は、学も力量もない私にできるのかと悩みましたが、先輩方が力を貸してください、支えてくださったお陰で苦労しながらも作成することができました。このような貴重な体験は今後の自分の人生にも大きな影響を与えていただいたと思い、深く感謝しています。

看護業務では現在は主に手術室を担当し、日々勉強させていただいている。当院では腹腔鏡検査を数多く行っていますが、子宮内膜症、多囊胞性卵巣に対する卵巣パンチ切除術、卵巣嚢腫の患者さんの治療に有効です。ヨーロッパでは「腹腔鏡検査が終わっていなければ不妊症の検査が終了したとはいえない」といわれるほど重要な検査です。腹腔鏡検査をすると子宮内膜症が約57%発見されることから、初診時から早めに腹腔鏡検査へのステップアップを声掛けし、サポートしていくことが必要だと思います。

今年は、看護部に4人の新人が入職しました。若さのパワーに負けないように自分自身も初心を忘れずに努力していきたいと思います。そして患者さんに安心して受診していただけるように努め、一人ひとりの気持ちに寄り添えるように心がけていきたいと思います。

# 一年を振り返って

## 研究室・培養室

城戸 京子

「不妊治療ってなんだか面白そう」とセント・ルカ産婦人科の求人募集に応募してから、気付けば19年目の春を迎えていました。入職したばかりのころ、受精卵の美しさに感動した記憶は鮮明に残っていますが、「一年を振り返って」を書くにあたり、入職してからの毎日が慌ただしくあっという間に過ぎてきたのを改めて感じています。

2018年の研究室・培養室を振り返ると、二つの大きな出来事がありました。

一つは主任の後藤香里が大分大学医学部産科婦人科学講座 教授 榎原久司先生の元、河野康志准教授のご指導を受け、医学博士を取得しました。ルーチンをしながら実験をし、休日にも大学へ通い頑張る姿に、私を含め培養室スタッフ全員が刺激を受けていました。培養室の4人の博士らとともに研究のディスカッションができるることは非常に恵まれた環境であり、これからも各自研究を進めていかなくてはと思います。

もう一つの出来事は2017年から始まった日本産科婦人科学会のPGT-A（着床前異数性検査）パイロットスタディが2018年で終了したことです。適応となる患者さんへの声掛け、バイオプシー、データ報告などなど、PGT-Aに伴う業務は多施設共同研究であることもあり想像以上に注意力と時間を必要とするものでした。学会より発表された中間報告データではPGT-Aを行った場合の移植あたりの妊娠率は70%を超え、とても良好であったとのことでほっとしています。入職した当初より、院長はPGT-Aは生殖補助医療に必要な技術であると言い続けてこられました。途中、海外のデータでその有効性に疑問が呈された際でも、方法や技術力が適切であればとその信念を曲げることなく推し進めてこられましたが、今回のパイロットスタディの結果により、やはりPGT-Aは妊娠困難な患者さんたちへ有効な治療となりうることが示されました。パイロットスタディに続く検討がどのようになるのか、まだ先は見えていませんが、少しでも多くの患者さんがこの技術の恩恵にあずかれるよう、常に準備を整えておきたいと思います。

セント・ルカは、この4月より医師4人体制へと変わりました。培養室スタッフは平均勤続年数18年と非常に安定していますが、この安定に落ち着きすぎることなく、内外の変化へ柔軟に対応しながら、これから的一年もルーチンに研究にしっかりと励んでいきたいと思います。

# 一年を振り返って

## 受付

川内 玲菜

セント・ルカに入職し、早くも二年半が過ぎようとしています。まだ新人としての気持ちも抜け切らないまま、この度、受付としての「一年を振り返って」を書かせて頂くことになりました。子どもの頃は、一日一日が大変濃く、ふとした時に記憶を思い起こす機会も多かったのですが、大人になってからは、日々の忙しさに追われ、記憶を思い起こす機会もそうありません。未熟な身でありながら大変恐縮ですが、この一年を改めて振り返る機会を頂いたと捉え、入職してからの日々を含め、書かせて頂きたいと思います。

元々他県出身で、大分の病院についても詳しくない状態で就職活動を行い、ご縁があり、不妊治療専門の院長の下で働かせて頂くことになりました。不妊治療についてももちろん全くの未知で、人工授精と体外受精の違いも分からず、人工授精や体外受精は「行ったら100%妊娠できるもの」という素人以下の知識しかない状態でした。そんな状態ですから、入職当初は、右も左も分からず、先生方をはじめ、沢山の先輩方にご指導頂きながら、一日一日を我武者羅に過ごしていたように思います。

働き始めて、まず驚いたのが患者さんの数の多さです。これだけの人が子どもの誕生を待ち望み、治療に通おうと決意され、セント・ルカの門を叩かれたのだと衝撃を受けたのを覚えています。

患者さんの数が多いこともあり、待ち時間の短縮が課題として常々挙げられていました。昨年まで予約総数に関係なく、患者さんのご希望の時間でご予約を承っていたのですが、看護部の発案で、時間毎に予約数を決めることで、待ち時間の短縮を図りました。その結果、以前より確実に短くなり、実際に患者さんからも「待ち時間が短くなった」との喜びの声も頂くようになりました。

また、会計での待ち時間の短縮も目指し、先生方が指示された検査等の情報がそのまま会計入力パソコンへ飛ぶ「オーダーシステム」の導入を検討し、現在、IT委員を中心に動いています。導入されれば更に待ち時間の短縮が見込まれます。

ただでさえ治療には心身ともに負担を強いられます。治療中は月に何回も通う必要があり、その度に待ち時間はストレスとして患者さんに圧し掛かってきます。その負担を少しでも減らせるよう、スタッフ一丸となって対策を講じながら頑張って参りたいと思います。

まだまだ新人の立場ではありますが、私の下にも二名の受付スタッフが入り、指導する場面も増えてきました。先輩方から教わったことをしっかりと伝えるとともに、自分自身も常に初心の気持ちを忘れず、患者さんに寄り添った接遇を心掛けて日々努めて参りたいと思います。

# 一年を振り返って

情報処理室

後藤 彩美

セント・ルカ産婦人科に入職して2年が経ち、3年目を迎えた今、初めてこの「一年を振り返って」で自身のこれまでを振り返る機会をいただきました。ルカに入職するまでは異業種に勤めており、入職してからは初めて経験することばかりの業務を覚えることと、生殖医療について理解することに日々邁進してきました。それらを振り返ると、毎日与えられた仕事をこなすだけで終わっていたな、と反省しています。

私がルカに入職して一番変わったことは、不妊治療に対する考え方です。情報処理室は直接患者さんと関わる機会がほとんどなく、日頃は、院内システムがスムーズに運用できるようサポートしたり、患者さんからいただいた出産報告やお子さんの発育アンケートのデータ入力等を行っています。大切なデータを扱ううえで、治療内容への理解が不可欠ですが、当初は、普段患者さんがどのような診察を受け、治療をされているのかが感じ取りにくく、とても苦労しました。そのため、患者さんと同じように、それぞれ月に1度開催される新患教室や体外受精教室に毎回出席して基本的な治療や考え方について学んだり、研究会等で他施設の先生方の講演を拝聴したりと貴重な機会をいただき、学ばせていただきました。このような会に参加する度に、患者さんにとってルカでの治療がどれだけ力になっているのかを改めて感じることが出来ます。教室の後ろから、院長やスタッフの話を真剣に聞くご夫婦の姿を見て、自然と自分もスタッフの一員であることを誇りに思い、身が引き締まります。

日本の医療の進歩は早く、生殖医療も例外ではありません。ルカでも様々な研究が行われています。日々の決してゆるやかではない業務の中、数々の学会に参加し、地道に行ってきた研究が評価され、名誉ある賞を受賞する先輩方や、入職後に、生殖医療相談士や管理胚培養士など、不妊治療を行うにあたり、大変重要であり難しい資格を取得する方もいます。院長も2018年に臨床遺伝専門医を取得され、私が入職して以降の2年だけでもセント・ルカ産婦人科のレベルアップが止まりません。

このような努力の絶えない先生や先輩方の姿を見て、自分の不甲斐なさに落ち込む日もありますが、同じ環境で働き、微力ながらサポートが出来るということに、喜びを感じています。

情報処理室の仕事に対しては、恥ずかしながら、どれもまだ一人前とはいえません。情報処理室は、3名在籍していますが、一日でも早く他の二人に並べるよう、そして情報処理室のレベルアップに貢献できるよう頑張りたいと思います。

# 一年を振り返って

厨 房

矢野 千恵美

山々に新緑も広がり、心地よい季節となりました。

さて、昨年を振り返れば、2018年8月の事。行方不明になっていた2歳児を助け、一躍、時の人となつたスーパーボランティアの尾畠さんが印象深く思い出されます。

「飴ちゃんどうぞ!!」の話を聞いた時、“食”ってすごい。おかげさに言えば、“生と死”を分ける命の糧、それを仕事としている私は、色々な意味で大変な立ち位置にいるんだなと感じました。

そこで昨年は、厨房も院外での研修や講習会など、勤務以外の場所からの情報や学習ができる場に出て、スキルアップの為、大分県栄養士会が主催する、野菜ソムリエによる野菜料理教室に何度か参加させて頂きました。栄養講話と実習で3時間ほどなのですが、メニューは5品目以上分担して調理する為、自分が携われない料理もあり、隣の作業を横目で追いながら、あれもこれも吸収しなければとあつという間に終了しました。ただ料理本を見ながら調理するのとは違い、一目瞭然。疑問・質問があればすぐに解決できますから、色々知りたくて次から次へと意欲がかき立てられました。学習とはこんなにも楽しいものだったか？若い時は苦痛でしかありませんでしたが、おかげでたくさんのヒントをもらい、何度も試作しながら日々の献立にも新しいメニューを少しづつ取り入れることが出来ています。

患者さんからの声では、「味はもちろんですが、きれいな盛り付け、主人にも食べさせたい。家でもやってみようと思います。」と嬉しいお言葉をいただくこともあります。第一に目に飛び込む色や形、旬の野菜をたくさん取り込み、ビタミンカラーでルカの食卓より元気パワーを発進し続けたいと思います。



# 診療統計

開院から2018年までの成績



# 開院から2018年までの成績

(1992.6.3～2018.12.31)

## 当院の患者数

1) 開院(1992.6.3)～本年(2018.12.31)までの外来患者数 28,240人

|      |         |                |             |
|------|---------|----------------|-------------|
| (内訳) | 男性      | 10,466人(37.1%) | (平均年齢34.3才) |
|      | 正常      | 5,563人(53.2%)  |             |
|      | 異常      | 4,534人(43.3%)  |             |
|      | 未検査・未診断 | 369人(3.5%)     |             |
|      | 女性      | 17,774人(62.9%) | (平均年齢32.2才) |

・拳児希望の女性 13,771人(77.5%) (平均年齢32.1±4.7才)

・2017年1年間の拳児希望女性 507人(平均年齢34.1±5.0才)

・妊娠件数 8,994件(平均年齢32.8±4.4才)

・妊娠に至らなかった女性 6,286人

2) 妊娠率(患者あたり) 54.4% {(13,771-6,286)/13,771}

3) 治療を途中で諦めた女性 6,148人(44.6%)

A) 諦めざるをえなかった人(無精子症、早発閉経、高齢など) 1,579人(11.5%)

B) いつの間にか諦めた人 4,569人(33.2%)

4) 実妊娠率(Aを除く患者あたり) 61.4% {(13,771-6,286)/(13,771-1,579)}

5) 実妊娠率(A,Bを除く患者あたり) 98.2% {(13,771-6,286)/(13,771-6,148)}

## 妊娠に至った主たる有効治療

| ART(生殖補助医療)全体     | 4,283例 | (47.6%)  |
|-------------------|--------|----------|
| IVF-ET(体外受精)      | 693例   | (7.70%)  |
| MF-ET(顕微授精)       | 1,161例 | (12.91%) |
| CRYO-ET(凍結胚移植)    | 2,386例 | (26.53%) |
| GIFT(配偶子卵管内移植法)   | 38例    | (0.42%)  |
| ZIFT(接合子卵管内移植法)   | 5例     | (0.06%)  |
| ART(生殖補助医療)以外     | 4,711例 | (52.4%)  |
| IUI(選別精子子宮内注入法)   | 814例   | (9.05%)  |
| hMG+hCG, Gn-RHa   | 1,019例 | (11.33%) |
| クロミフェン            | 501例   | (5.57%)  |
| ヒューナーテスト, タイミング指導 | 899例   | (10.00%) |
| HSG(子宮卵管造影法)直後    | 710例   | (7.89%)  |
| 腹腔鏡検査後自然妊娠        | 562例   | (6.25%)  |
| 腹腔鏡検査および子宮鏡手術     | 4例     | (0.04%)  |
| 腹腔鏡下子宮筋腫核出術       | 12例    | (0.13%)  |
| リンパ球免疫療法          | 15例    | (0.17%)  |
| その他               | 175例   | (1.95%)  |
| 計                 | 8,994例 | (100%)   |

## 妊娠の転帰

|          |        |          |
|----------|--------|----------|
| 分娩病院へ紹介済 | 6,414例 | (71.32%) |
| 流産       | 2,227例 | (24.76%) |
| 異所性妊娠    | 227例   | ( 2.52%) |
| 胞状奇胎     | 14例    | ( 0.16%) |
| 中絶       | 3例     | ( 0.03%) |
| 不明       | 109例   | ( 1.21%) |
| 計        | 8,994例 | ( 100%)  |

## 出産結果（分娩病院へ紹介済の6,414例中、妊娠結果が判明している6,062例について）

### 1) 妊娠結果

|               |        |          |
|---------------|--------|----------|
| 満期産           | 5,310例 | (87.59%) |
| 満期産+死産*       | 6例     | ( 0.10%) |
| 満期産+異所性妊娠*    | 1例     | ( 0.02%) |
| 満期産+奇形中絶*     | 1例     | ( 0.02%) |
| 早産            | 547例   | ( 9.02%) |
| 早産+死産*        | 10例    | ( 0.16%) |
| 過期産           | 19例    | ( 0.31%) |
| 死産            | 61例    | ( 1.01%) |
| 流産            | 77例    | ( 1.27%) |
| 流産+死産*        | 1例     | ( 0.02%) |
| 奇形中絶          | 18例    | ( 0.30%) |
| 人工妊娠中絶        | 10例    | ( 0.16%) |
| 子宮摘出(病気治療のため) | 1例     | ( 0.02%) |
| 計             | 6,062例 | ( 100%)  |

\* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

### 2) 多胎妊娠について

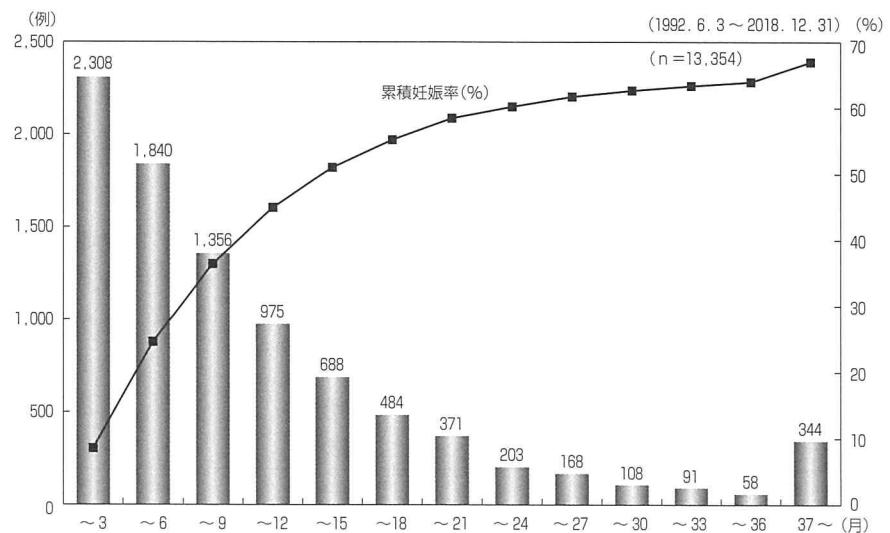
|    |        |         |        |
|----|--------|---------|--------|
| 単胎 | 5,666例 | (93.5%) | 5,666児 |
| 双胎 | 378例   | ( 6.2%) | 756児   |
| 品胎 | 17例    | ( 0.3%) | 51児    |
| 計  | 6,061例 | ( 100%) | 6,473児 |

### 3) 出生児の状態

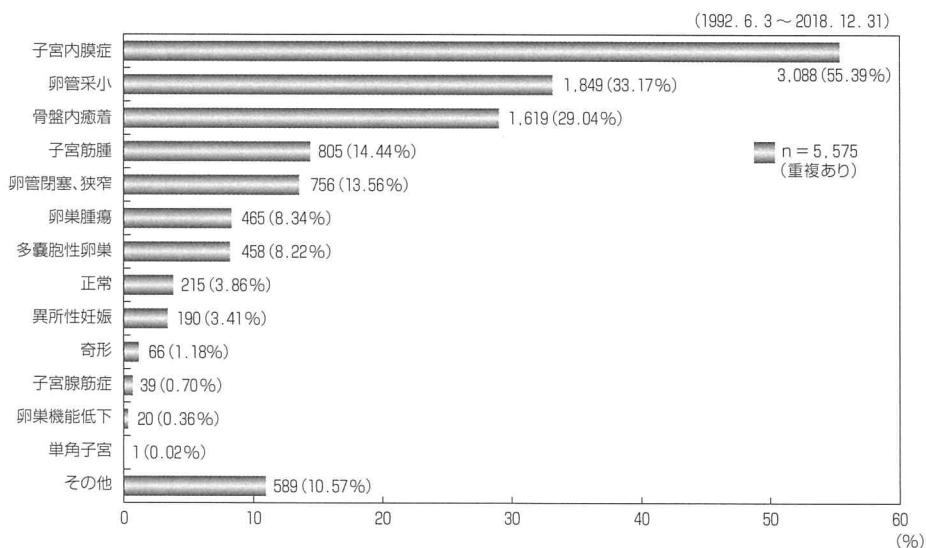
|               |        |         |
|---------------|--------|---------|
| 正常            | 5,130児 | (79.3%) |
| 低体重児          | 921児   | (14.2%) |
| 異常(死産等含む)     | 422児   | ( 6.5%) |
| (うち奇形を含む主な異常) | (255児) | ( 3.9%) |
| 計             | 6,473児 | ( 100%) |

(2018/12/31 セント・ルカ産婦人科)

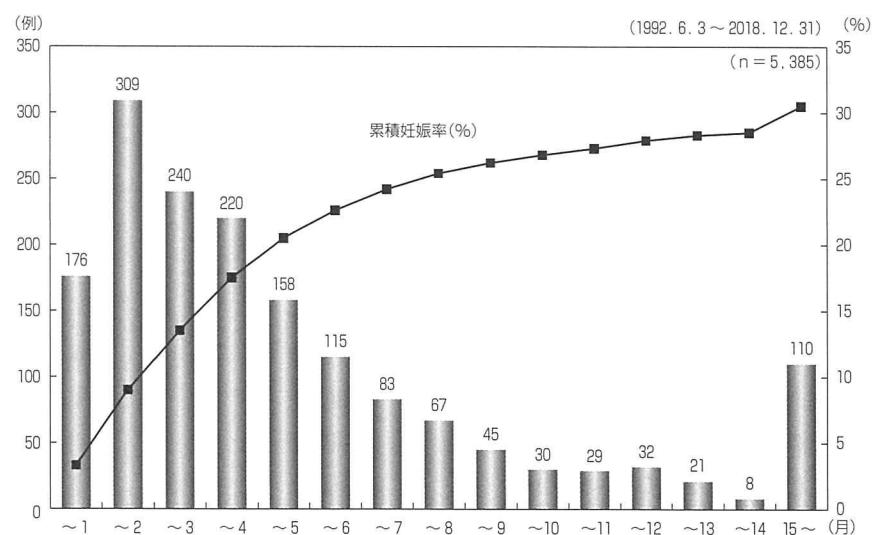
## 初診後妊娠までの期間



## 不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断



## 腹腔鏡検査後妊娠までの期間



# 妊娠数

(1992.6.3～2018.12.31)

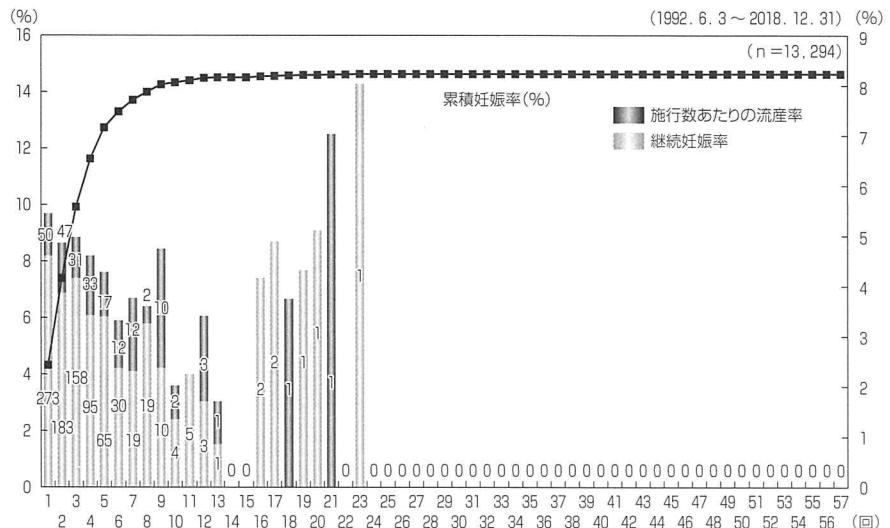
|                                     | 周 期    | 1992～2015     | 2016        | 2017        | 2018        | 合 計           |
|-------------------------------------|--------|---------------|-------------|-------------|-------------|---------------|
| 体外受精胚移植<br>(IVF-ET)                 | 採 卵    | 3,558         | 16          | 26          | 10          | 3,610         |
|                                     | 移 植    | 2,509         | 0           | 4           | 5           | 2,518         |
|                                     | 妊 娠    | 688 (27.4%)   | 0 (0%)      | 1 (25.0%)   | 2 (40.0%)   | 691 (27.4%)   |
| 顯微授精胚移植<br>(MF-ET)                  | 採 卵    | 8,630         | 718         | 735         | 669         | 10,752        |
|                                     | 移 植    | 5,168         | 4           | 260         | 296         | 5,728         |
|                                     | 妊 娠    | 1,043 (20.2%) | 0 (0%)      | 49 (18.8%)  | 64 (21.6%)  | 1,156 (20.2%) |
| 凍結融解胚移植<br>(ICSI後凍結含む)<br>(CRYO-ET) | 凍結融解周期 | 6,124         | 767         | 612         | 535         | 8,038         |
|                                     | 移 植    | 5,580         | 714         | 560         | 497         | 7,351         |
|                                     | 妊 娠    | 1,682 (30.1%) | 285 (39.9%) | 181 (32.3%) | 184 (37.0%) | 2,332 (31.7%) |
| 体外成熟培養後<br>凍結融解胚移植<br>(IVM-CRYO-ET) | 凍結融解周期 | 179           | 9           | 0           | 0           | 188           |
|                                     | 移 植    | 149           | 9           | 0           | 0           | 158           |
|                                     | 妊 娠    | 50 (33.6%)    | 3 (33.3%)   | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 53 (33.5%)    |
| 配偶子卵管内移植<br>(GIFT)                  | 採 卵    | 153           | 0           | 0           | 0           | 153           |
|                                     | 移 植    | 151           | 0           | 0           | 0           | 151           |
|                                     | 妊 娠    | 38 (25.2%)    | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 38 (25.2%)    |
| 接合子卵管内移植<br>(ZIFT)                  | 採 卵    | 44            | 0           | 0           | 0           | 44            |
|                                     | 移 植    | 44            | 0           | 0           | 0           | 44            |
|                                     | 妊 娠    | 5 (11.4%)     | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 5 (11.4%)     |
| 体外受精胚<br>卵管内移植<br>(IVF-TET)         | 採 卵    | 22            | 0           | 0           | 0           | 22            |
|                                     | 移 植    | 21            | 0           | 0           | 0           | 21            |
|                                     | 妊 娠    | 2 (9.5%)      | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 2 (9.5%)      |
| 顯微授精胚<br>卵管内移植<br>(MF-TET)          | 採 卵    | 18            | 0           | 0           | 0           | 18            |
|                                     | 移 植    | 18            | 0           | 0           | 0           | 18            |
|                                     | 妊 娠    | 5 (27.8%)     | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 5 (27.8%)     |
| 凍結融解胚<br>卵管内移植<br>(CRYO-TET)        | 凍結融解周期 | 3             | 0           | 0           | 0           | 3             |
|                                     | 移 植    | 3             | 0           | 0           | 0           | 3             |
|                                     | 妊 娠    | 1 (33.3%)     | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 1 (33.3%)     |
| 体外成熟培養<br>体外受精胚移植<br>(IVM-IVF-ET)   | 採 卵    | 8             | 0           | 0           | 0           | 8             |
|                                     | 移 植    | 0             | 0           | 0           | 0           | 0             |
|                                     | 妊 娠    | 0 (0%)        | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 0 (0%)      | 0 (0%)        |
| 小 計                                 | 採 卵    | 12,433        | 734         | 761         | 679         | 14,607        |
|                                     | 凍結融解周期 | 6,306         | 776         | 612         | 535         | 8,229         |
|                                     | 移 植    | 13,643        | 727         | 824         | 798         | 15,992        |
|                                     | 妊 娠    | 3,514 (25.8%) | 288 (39.6%) | 231 (28.0%) | 250 (31.3%) | 4,283 (26.8%) |

|            |       |     |     |     |       |
|------------|-------|-----|-----|-----|-------|
| ART*以外の妊娠数 | 4,274 | 146 | 163 | 128 | 4,711 |
| 妊娠総数       | 7,788 | 434 | 394 | 378 | 8,994 |

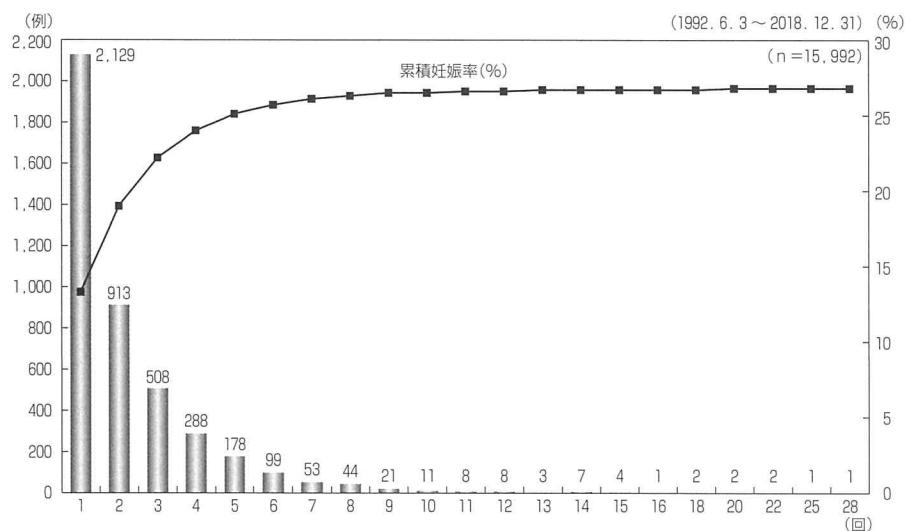
\*生殖補助医療

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

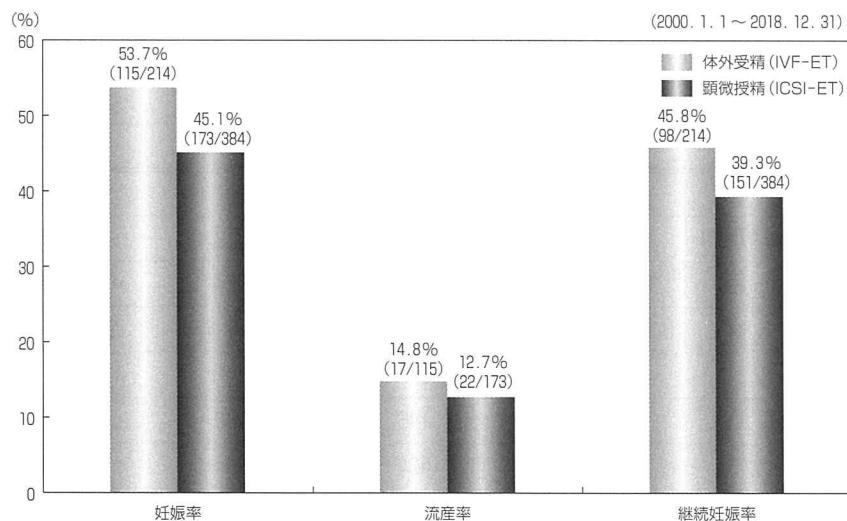
## IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率



## ART(生殖補助医療／体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠



## 35歳未満・体外受精1回目の妊娠率





# 診療統計

2018年一年間の成績



## 2018年一年間の成績

### 外来患者数

(2018.1.1～2018.12.31)

|     | 午前診療   | 午後診療  | 夕方診療  | 合計     |
|-----|--------|-------|-------|--------|
| 1月  | 1,060  | 217   | 303   | 1,580  |
| 2月  | 1,091  | 163   | 235   | 1,489  |
| 3月  | 1,220  | 231   | 229   | 1,680  |
| 4月  | 1,003  | 263   | 194   | 1,460  |
| 5月  | 699    | 143   | 125   | 967    |
| 6月  | 713    | 260   | 194   | 1,167  |
| 7月  | 1,268  | 278   | 94    | 1,640  |
| 8月  | 1,287  | 252   | 178   | 1,717  |
| 9月  | 1,225  | 189   | 202   | 1,616  |
| 10月 | 1,074  | 263   | 131   | 1,468  |
| 11月 | 1,113  | 237   | 214   | 1,564  |
| 12月 | 1,097  | 255   | 165   | 1,517  |
| 合計  | 12,850 | 2,751 | 2,264 | 17,865 |

### 初診患者数

(2018.1.1～2018.12.31)

|     | 午前診療 | 午後診療 | 合計  |
|-----|------|------|-----|
| 1月  | 37   | 7    | 44  |
| 2月  | 34   | 4    | 38  |
| 3月  | 37   | 9    | 46  |
| 4月  | 30   | 6    | 36  |
| 5月  | 26   | 4    | 30  |
| 6月  | 45   | 8    | 53  |
| 7月  | 44   | 7    | 51  |
| 8月  | 47   | 8    | 55  |
| 9月  | 34   | 1    | 35  |
| 10月 | 36   | 10   | 46  |
| 11月 | 30   | 5    | 35  |
| 12月 | 31   | 6    | 37  |
| 合計  | 431  | 75   | 506 |

# 手術・入院数

(2018.1.1～2018.12.31)

|  | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|--|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|
|--|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|

## 手術入院

|                        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |
|------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 腹腔鏡手術                  | 26 | 14 | 18 | 17 | 12 | 14 | 8  | 17 | 10 | 9  | 14 | 9  | 168 |
| 腹腔鏡下子宮筋腫核出術            | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 1  | 1  | 4   |
| 子宮筋腫核出術(開腹)            | 1  | 1  | 1  | 2  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 2  | 1  | 2  | 15  |
| 腹腔鏡下子宮外妊娠手術            | 0  | 1  | 0  | 2  | 0  | 1  | 0  | 1  | 0  | 0  | 1  | 0  | 6   |
| 経頸管子宮筋腫・内膜ポリープ切除術(TCR) | 0  | 2  | 5  | 2  | 0  | 1  | 1  | 1  | 0  | 1  | 2  | 2  | 17  |
| 子宮内容除去術(流産のため)         | 8  | 6  | 10 | 4  | 7  | 4  | 13 | 13 | 8  | 2  | 8  | 5  | 88  |
| 卵管鏡下卵管形成術              | 1  | 0  | 0  | 2  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 4   |
| 子宮内膜搔爬術                | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 2  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 2  | 4   |
| 卵胞穿刺術                  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 2  | 2  | 4  | 2  | 0  | 2  | 1  | 14  |
| その他                    | 3  | 1  | 0  | 1  | 2  | 0  | 2  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 10  |
| 合 計                    | 40 | 25 | 34 | 30 | 24 | 25 | 28 | 37 | 22 | 14 | 29 | 22 | 330 |

## 安静入院

|           |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 卵巣過剰刺激症候群 | 1 | 4 | 2 | 4 | 3 | 2 | 1 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 25 |
| 切迫流産安静    | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 12 |
| その他       | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3  |
| 合 計       | 1 | 4 | 4 | 5 | 6 | 2 | 4 | 7 | 3 | 2 | 1 | 1 | 40 |

## 体外受精入院

|                 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |     |     |       |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-------|
| 採卵              | 53  | 63  | 62  | 54  | 72  | 65  | 48  | 64  | 61  | 35 | 61  | 46  | 684   |
| 胚移植             | 12  | 26  | 24  | 23  | 29  | 41  | 24  | 26  | 28  | 10 | 31  | 27  | 301   |
| 凍結胚移植           | 39  | 45  | 46  | 32  | 51  | 44  | 38  | 32  | 48  | 48 | 36  | 40  | 499   |
| GIFT, ZIFT, TET | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0  | 0   | 0   | 0     |
| 合 計             | 104 | 134 | 132 | 109 | 152 | 150 | 110 | 122 | 137 | 93 | 128 | 113 | 1,484 |

|      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |       |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 入院総計 | 145 | 163 | 170 | 144 | 182 | 177 | 142 | 166 | 162 | 109 | 158 | 136 | 1,854 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|

# 妊娠の内訳

期間(2018.1.1～2018.12.31)

## 妊娠に至った主たる有効治療

| ART(生殖補助医療)全体     | 250例 | (66.1%) |
|-------------------|------|---------|
| IVF-ET(体外受精)      | 2例   | ( 0.5%) |
| MF-ET(顕微授精)       | 64例  | (17.0%) |
| CRYO-ET(凍結胚移植)    | 184例 | (48.7%) |
| ART(生殖補助医療)以外     | 128例 | (33.9%) |
| hMG+hCG, Gn-RHa   | 39例  | (10.3%) |
| クロミフェン            | 6例   | ( 1.6%) |
| ヒューナーテスト, タイミング指導 | 22例  | ( 5.8%) |
| HSG(子宮卵管造影法)直後    | 33例  | ( 8.7%) |
| 腹腔鏡検査後自然妊娠        | 25例  | ( 6.6%) |
| その他               | 3例   | ( 0.8%) |
| 計                 | 378例 | ( 100%) |

## 妊娠の転帰

|          |      |         |
|----------|------|---------|
| 分娩病院へ紹介済 | 268例 | (70.9%) |
| 流産       | 100例 | (26.4%) |
| 異所性妊娠    | 9例   | ( 2.4%) |
| 中絶       | 1例   | ( 0.3%) |
| 計        | 378例 | ( 100%) |

※出産結果は全ての妊娠結果が判明している2017年の妊娠を対象とする

## 出産結果 (2017年に妊娠し分娩病院へ紹介済の277例について)

期間 (2017.1.1～2017.12.31)

### 1) 妊娠結果

|      |      |         |
|------|------|---------|
| 満期産  | 249例 | (90.2%) |
| 早産   | 23例  | ( 8.3%) |
| 死産   | 1例   | ( 0.4%) |
| 流産   | 2例   | ( 0.7%) |
| 奇形中絶 | 1例   | ( 0.4%) |
| 計    | 276例 | ( 100%) |

### 2) 多胎妊娠について

|    |      |         |      |
|----|------|---------|------|
| 単胎 | 271例 | (98.2%) | 271児 |
| 双胎 | 5例   | ( 1.8%) | 10児  |
| 計  | 276例 | ( 100%) | 281児 |

### 3) 出生児の状態

|               |       |         |
|---------------|-------|---------|
| 正常            | 241児  | (85.8%) |
| 低体重児          | 23児   | ( 8.2%) |
| 異常(死産等含む)     | 17児   | ( 6.0%) |
| (うち奇形を含む主な異常) | (13児) | ( 4.6%) |
| 計             | 281児  | ( 100%) |

## 異常児の詳細 (2017年の妊娠で出生した281児のなかの13児について)

| 主な異常 13児   | 13児／281児 (4.6%) |       | うち ART*児 : 7児／148児 (4.7%) |       | ART以外児 : 6児／133児 (4.5%) |       |
|------------|-----------------|-------|---------------------------|-------|-------------------------|-------|
|            | ART             | ART以外 | ART                       | ART以外 | ART                     | ART以外 |
| 21-Trisomy | 0児              | 1児    | 先天性乳び胸                    |       | 1児                      | 0児    |
| 側脳室拡大      | 0児              | 1児    | 直腸肛門奇形                    |       | 1児                      | 0児    |
| 心室中隔欠損症    | 2児              | 2児    | 水腎症(両側)                   |       | 1児                      | 0児    |
| 完全大血管転位 I型 | 0児              | 1児    | 先天性耳瘻孔                    |       | 1児                      | 0児    |
| 動脈管開存症     | 0児              | 1児    | 口唇裂                       |       | 1児                      | 0児    |

\* 生殖補助医療

## ART(生殖補助医療)による妊娠

(2018.1.1～2018.12.31)

|                      | 採卵／凍結融解<br>周期数 | 胚移植周期数<br>(採卵／凍結融解あたり%) | 妊娠周期数<br>(移植あたり%) | 流産周期数<br>(妊娠あたり%) |
|----------------------|----------------|-------------------------|-------------------|-------------------|
| IVF-ET               | 10             | 5 (50.0%)               | 2 (40.0%)         | 0 ( 0%)           |
| MF-ET<br>(男性因子以外も含む) | 670            | 296 (44.2%)             | 64 (21.6%)        | 16 (25.0%)        |
| (ICSI)               | 640            | 296 (46.3%)             | 64 (21.6%)        | 16 (25.0%)        |
| CRYO-ET              | 535            | 497 (92.9%)             | 184 (37.0%)       | 63 (34.2%)        |
| 採卵周期合計               | 680            | 301 (44.3%)             | 66 (21.9%)        | 16 (24.2%)        |
| 全体合計                 | 1,215          | 798 (65.7%)             | 250 (31.3%)       | 79 (31.6%)        |

## ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況

(2017.1.1～2017.12.31)

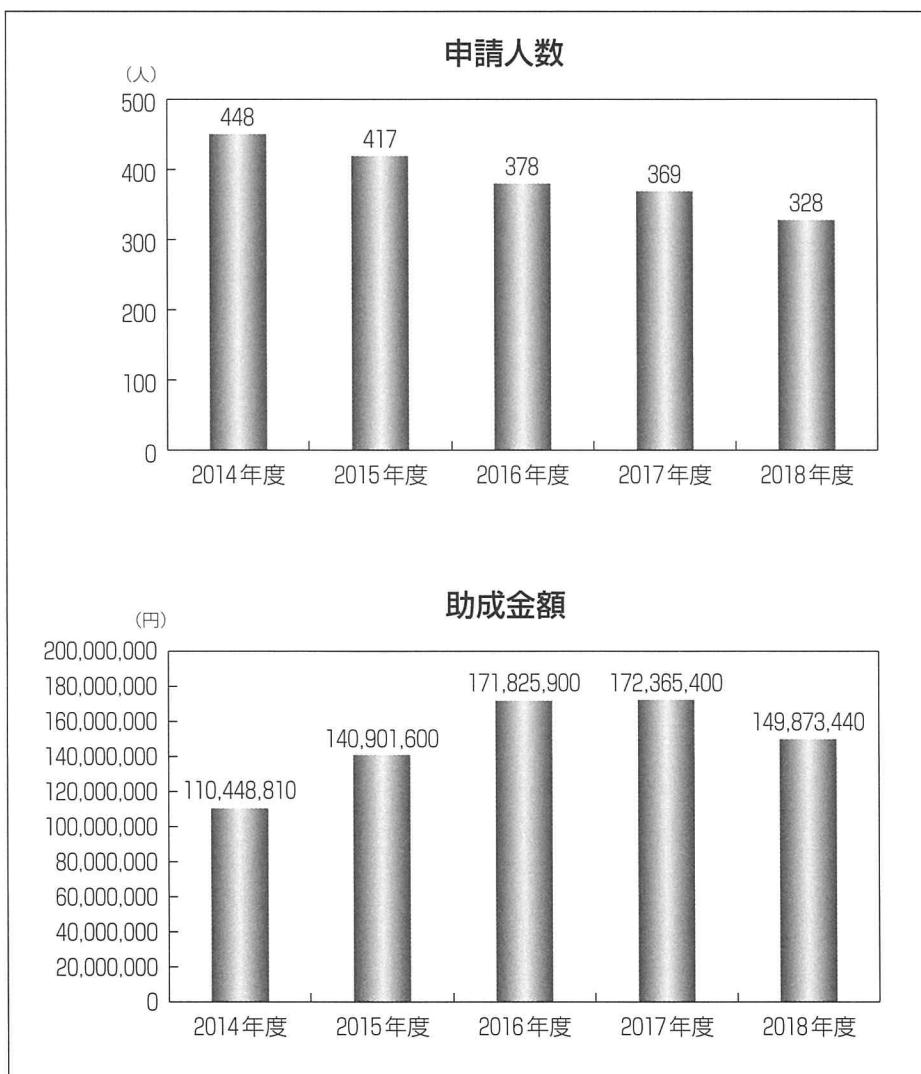
| 2017年に妊娠し、2018年12月31日までに妊娠結果が判明している145周期に限る |             |                |               |      |
|---|-------------|----------------|---------------|------|
| 妊娠結果  | 満期産         | 125周期 (86.2 %) |               |      |
|   | 早産          | 17周期 (11.7 %)  |               |      |
|   | 流産          | 2周期 ( 1.4 %)   |               |      |
|   | 奇形中絶        | 1周期 ( 0.7 %)   |               |      |
| 多胎妊娠について                                    | 148児        | 単胎             | 142例 (97.9 %) | 142児 |
|   |             | 双胎             | 3例 ( 2.1 %)   | 6児   |
| 低体重児  | 16児 (10.8%) |                |               |      |
| 異常児   | 10児 ( 6.8%) | うち奇形を含む主な異常    | 7児 ( 4.7%)    |      |

# 不妊治療費助成金申請内訳

## 2018年度

|     | 申請人数(人) | 申請回数(回) | 助成金額(円)     |
|-----|---------|---------|-------------|
| 大分県 | 113     | 200     | 54,215,000  |
| 大分市 | 188     | 342     | 91,225,540  |
| 他 県 | 5       | 13      | 1,900,000   |
| 市町村 | 22      | 27      | 2,532,900   |
| 合 計 | 328     | 582     | 149,873,440 |

## 過去5年分(2014年度～2018年度)のまとめ



セント・ルカ産婦人科

# 一年のあゆみ

# 行事一覧

## 2018

|      |   |
|------|---|
| 1. 4 | 新年会(セント・ルカ産婦人科 多目的室)  |
| 1. 4 | 新職員 糸永優子(メディカルアシスタント)、佐藤昭江(看護部)   |
| 1.13 | 第108回 新患教室 参加者69名<br>参加<後藤彩、平田、川内、青木、大城、橘、熊迫、糸永、秦岡、佐藤、宮田、渡邊、戸高、松土、稗田>   |
| 1.16 | 第224回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  |
| 1.20 | 第13回 治療終結を決断した元患者さんのお話 参加者 7名   |
| 1.20 | 遺伝カウンセリング・ロールプレイ研修会(GCRP2017)(熊本) 参加<院長>  |
| 1.21 | 大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会臨時総会(大分) 参加<院長>  |
| 1.21 | 日本卵子学会編集委員会(東京) 参加<大津>  |
| 1.23 | 日本新薬 社外講師招聘勉強会(大分) 参加<院長><br>講師:「不妊症の現状と子宮内膜症について」(院長)  |
| 1.27 | 第245回 体外受精教室 参加者50名<br>参加<後藤彩、平田、濱、橘、神田、後藤香、長木、糸永、秦岡、佐藤、宮田、渡邊、坂本、稗田>  |
| 1.28 | 平成29年度 大分県医師会母体保護法指定医師研修会(大分) 参加<院長>  |
| 2. 1 | 福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>  |
| 2. 2 | 第12回 大分女性医学フォーラム(大分) 参加<河邊>   |
| 2. 3 | 第6回 第11期オリーブの会 参加者 4名   |
| 2. 4 | JISART 第1回 PGT-A会議(福岡) 参加<院長>   |
| 2.10 | 第71回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(トキハ会館) 参加者79名<br>講師<越名(受付)、後藤裕(看護部)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生><br>参加<後藤彩、瀬戸口、平田、越名、橘、城戸、秦岡、土谷、宮田、渡邊、坂本、川村、後藤裕>   |
| 2.11 | 第246回 体外受精教室 参加者36名<br>参加<後藤彩、平田、越名、橘、神田、後藤香、糸永、秦岡、佐藤、宮田、松土>  |
| 2.13 | 第225回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  |
| 2.17 | 第9回 遺伝医学セミナー入門コース(愛知) 参加<院長>  |
| 2.17 | 第62回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>  |
| 2.18 | JISART 2018年度 施設認定審査説明会・審査員研修(東京) 参加<松土>  |
| 2.24 | 日本生殖心理学会年次総会(東京) 参加<院長>   |
| 2.25 | 第15回 日本生殖心理学会・学術集会(東京) 参加<城戸、手島、後藤裕、稗田、院長><br>座長:教育講演「がん・生殖医療とサイコソーシャルケア(心理社会支援)」(院長)<br>発表:「不妊治療終結における患者サポートに関する検討<br>～『ご夫婦2人の人生を選択した、元患者さんのお話』を開催して～」(手島しおり)<br>「大学生と初診患者における生殖知識と健康意識についての比較と不妊講義の学習効果」<br>(稗田真由美) (優秀演題賞受賞) |
| 2.27 | 第125回 大分県周産期研究会(大分)<br>参加<後藤彩、瀬戸口、安部、油野、平田、川内、青木、濱、大城、越名、橘、神田、長木、糸永、秦岡、土谷、宮田、渡邊、赤嶺、坂本、松元、手島、松土、越光、稗田、河邊、院長>   |
| 2.28 | 株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』夏号(Vol.38)取材  |
| 3. 2 | 新職員 池田久美(看護部)   |
| 3. 3 | 第71回 ガーネットサークル OG1名、参加者 6名  |
| 3. 3 | 日本卵子学会 平成29年度 第7回 理事会(東京) 参加<院長>  |

## 行事一覧

|      |  |
|------|--|
| 3.10 | 第109回 新患教室 参加者56名<br>参加〈後藤彩、平田、川内、濱、大城、橋、熊迫、糸永、宮田、渡邊、戸高、松土、稗田〉   |
| 3.13 | 第226回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院   |
| 3.15 | 平成29年度 第3回 大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会研修会・第27回大分産婦人科悪性腫瘍研究会(大分)<br>参加〈河邊、院長〉<br>発表：「がん患者の妊娠性温存について 一当院の経験一」(院長)  |
| 3.16 | 日本受精着床学会 平成29年度 第3回 常務理事会(東京) 参加〈院長〉   |
| 3.17 | 日本生殖発生医学会役員会(東京) 参加〈院長〉  |
| 3.18 | 日本生殖発生医学会 第13回 学術集会(東京) 参加〈神田、長木、院長〉<br>座長：特別講演3「PGD／PGS の現状と展望」(院長)<br>発表：「生殖補助医療(ART)後の流産周期で卵黄嚢及び胎児心拍の有無と<br>得られた流産絨毛のメチル化との関係」(神田晶子)<br>「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」(長木美幸)  |
| 3.20 | 診療報酬・介護報酬点数改訂に伴う県下一斎説明会(大分) 参加〈平田、川内、青木、濱、越名〉  |
| 3.24 | 第7回 第11期オリーブの会 参加者6名   |
| 3.24 | 日本A-PART理事会(東京) 参加〈院長〉   |
| 3.25 | 日本A-PART学術講演会2018(東京) 参加〈熊迫、坂本、院長〉<br>講演：「日本A-PART臨床研究年次報告」(院長)<br>「日本A-PARTの歴史を振り返って～加藤修先生を偲んで～」(院長)<br>発表：「詳細な精子形態評価に着目した体外受精の受精予測と<br>レスキューICSIの有用性についての検討」(熊迫陽子)<br>「流産経験のある夫婦の会について」(坂本順子)  |
| 3.31 | 第247回 体外受精教室 参加者60名 参加〈後藤彩、平田、大城、糸永、佐藤、神田、松土、稗田〉   |
| 3.31 | セント・ルカ産婦人科 & メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)   |
| 4.1  | 日本生殖心理学会 生殖医療相談士認定(受付：青木桜)   |
| 4.2  | 新職員 吉良美咲(看護部)、日野裕子(看護部)  |
| 4.3  | 安全管理研修：ラボ内管理について(担当：研究室・培養室)   |
| 4.7  | 第110回 新患教室 参加者34名<br>参加〈瀬戸口、平田、川内、濱、大城、大津、糸永、日野、吉良、佐藤、戸高、越光、稗田〉  |
| 4.11 | PGT-Aに関する中間評価検討会(東京) 参加〈神田、城戸、院長〉  |
| 4.12 | 福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加〈院長〉   |
| 4.13 | 第47回 大分市医師会産婦人科—内分泌・不妊・代謝—懇話会(大分)<br>参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、矢野、平田、川内、青木、濱、大城、後藤厚、橋、神田、城戸、大津、糸永、<br>土谷、日野、吉良、宮田、渡邊、北田、亀井、松元、手島、松土、越光、後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長〉<br>「精子・卵子提供と子どもへの告知・出自を知る権利」<br>(東京医科大学病院産科婦人科学講座 教授 久慈直昭先生)   |
| 4.14 | 第14回 九州産婦人科内視鏡手術研究会(福岡) 参加〈青木、越光、河邊、院長〉<br>発表：「不妊患者における子宮筋腫核出術および子宮腺筋症核出術後の瘢痕についての検討」(院長)  |
| 4.15 | 第75回 九州・沖縄生殖医学会(福岡) 参加〈青木、神田、後藤香、長木、越光、河邊、院長〉<br>発表：「大分県助成金制度について 患者への聞き取り調査」(青木桜)<br>「生殖補助医療(ART)後の流産周期で卵黄嚢及び胎児心拍の有無と<br>得られた流産絨毛のメチル化との関係」(神田晶子)<br>「精子形態が胚発育タイムラプス所見に及ぼす影響 — Kruger's strict criteria を用いて—」<br>(後藤香里)<br>「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」(長木美幸)<br>「4種のプロゲステロン腫剤を使用した患者への調査」(越光直子) |

|      |   |
|------|---|
| 4.17 | 第227回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  |
| 4.21 | 第248回 体外受精教室 参加者52名 参加〈平田、青木、神田、後藤香、大津、糸永、日野、吉良、宮田、坂本〉  |
| 4.21 | 日本卵子学会 平成30年度 第1回 倫理講習会(東京) 参加〈神田〉  |
| 4.22 | 日本卵子学会 平成30年度 生殖補助医療管理胚培養士資格認定制度資格更新審査(東京) 参加〈大津〉   |
|      | 職員旅行(台湾・台北班)<br>参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、川内、青木、濱、橋、城戸、後藤香、長木、熊迫、土谷、北田、足立、手島、河邊、院長〉   |
| 4.24 | 職員旅行(熊本1班) 参加〈油野、平田、渡邊、坂本、越光、後藤裕〉   |
| 4.28 | 第72回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(トキハ会館) 参加者87名<br>講師〈越名(受付)、川村(看護部)、稗田(臨床心理士)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック緒方俊一先生〉 参加〈後藤彩、瀬戸口、平田、越名、後藤厚、長木、糸永、土谷、吉良、佐藤、坂本、川村、後藤裕、稗田〉   |
| 5. 7 | 新職員 秦みのり(看護部)   |
| 5. 7 | 平成30年度 大分大学医学部医学科 第6年次生「産科婦人科」学外臨床実習 豊田薰さん(～5月19日まで)  |
| 5. 8 | 第228回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院  |
| 5.12 | 第70回 日本産科婦人科学会学術講演会(宮城) 参加〈院長〉  |
| 5.14 | 新職員 廣瀬尚美(受付)  |
| 5.15 | 院内全体研修：避難訓練(担当：教育・推進委員)   |
| 5.15 | 第28回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会<br>倫理委員長：野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師)<br>倫理委員：上野徳美先生(大分大学 名誉教授)、緒方俊一先生(わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック院長)、河野浩先生(河野・千野法律事務所 弁護士)、後藤裕子(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、近藤邦子先生(別府平和園 園長) (五十音順)                                   |
| 5.17 | 大分県立看護科学大学(大分)講義<br>参加〈後藤彩、瀬戸口、平田、後藤厚、糸永、秦、吉良、佐藤、宮田、渡邊〉<br>講義：「不妊症講座」(院長)   |
| 5.19 | 第249回 体外受精教室 参加者54名<br>参加〈瀬戸口、廣瀬、平田、濱、後藤厚、橋、神田、後藤香、糸永、秦、吉良、宮田、渡邊、手島、稗田〉   |
| 5.26 | 第8回 第11期オリーブの会 参加者3名  |
| 5.26 | 第59回 日本卵子学会学術集会(埼玉) 参加〈神田、後藤香、長木、院長〉<br>座長：一般演題「培養液」(院長)<br>発表：「生殖補助医療(ART)後の流産周期で卵黄嚢及び胎児心拍の有無と<br>得られた流産絨毛のメチル化との関係」(神田晶子)<br>「Kruger's strict criteria を用いた精子正常形態率が胚発育へ及ぼす影響」(後藤香里)<br>「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」(長木美幸) |
| 5.26 | 平成30年度 日本卵子学会 第1回 理事会(埼玉) 参加〈院長〉  |
| 5.26 | 日本生殖心理学会 2018年度(第12期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加〈坂本〉   |
| 5.27 | 日本卵子学会 第18回 培地開発委員会(埼玉) 参加〈院長〉  |
| 5.29 | マネジメントレビュー  |
| 5.29 | 院内全体研修：接遇(担当：受付)  |
| 5.29 | 第5回 里親・養子縁組の説明会～治療を経て里親・縁組をされた方のお話～   |
| 5.30 | 株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』秋号(Vol.39)取材  |

## 行事一覧

|       |  |
|-------|--|
| 6. 1  | 第1回 がん・生殖医療フォーラム大分(全労済ソレイユ)<br>参加<瀬戸口、安部、川内、青木、濱、越名、小池、長木、熊迫、大津、坂本、越光、後藤裕、河邊、院長><br>講演:「がん患者の妊娠性温存の歴史と生殖補助医療(ART)の実際」(院長)  |
| 6. 2  | JISART 非配偶者間ガイドライン改定検討会(長崎) 参加<院長>   |
| 6. 2  | 第63回 JISART 理事会(長崎) 参加<院長>   |
| 6. 2  | 第11回 JISART 医療事務教育セミナー(長崎) 参加<濱>   |
| 6. 2  | 第11回 JISART ラボ教育セミナー(長崎) 参加<城戸>  |
| 6. 2  | 第15回 JISART 看護教育セミナー(長崎) 参加<坂本>  |
| 6. 3  | 第16回 JISART シンポジウム(長崎) 参加<濱、城戸、坂本、院長><br>座長:教育講演Ⅲ「ARTにおける遺伝カウンセリング」(院長)  |
| 6. 7  | 福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長><br>発表:「テーマ:不妊症」(院長)   |
| 6. 8  | 第239回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<河邊>   |
| 6. 9  | 第111回 新患教室 参加者81名 参加<廣瀬、川内、大城、小池、糸永、秦、吉良、宮田、越光、稗田>   |
| 6. 10 | 第25回 セント・ルカセミナー(全労済ソレイユ)<br>講演1:「今、改めて出生前診断を考える」<br>吉村恭典先生<内閣官房参与／慶應義塾大学 名誉教授><br>座長:宮川勇生先生<大分大学 名誉教授><br>講演2:「生殖医療の課題と日本産科婦人科学会の取り組み」<br>苛原稔先生<徳島大学大学院医歯薬学研究部産科婦人科学分野 教授><br>座長:檜原久司先生<大分大学医学部産科婦人科学講座 教授><br>ランチョンセミナー1:「PGD 普及のためには何が必要か」<br>田中温先生<セントマザー産婦人科医院 院長><br>座長:竹内一浩先生<竹内レディースクリニック 院長><br>ランチョンセミナー2:「PGT の歴史、現状、課題について」<br>竹内一浩先生<竹内レディースクリニック 院長><br>座長:田中温先生<セントマザー産婦人科医院 院長><br>講演3:「PGT-Aをめぐる倫理 …… JISART 倫理委員の経験を踏まえて」<br>金城清子先生<元龍谷大学法科大学院 教授><br>座長:吉村恭典先生<内閣官房参与／慶應義塾大学 名誉教授><br>講演4:「解析施設からみた PGT-A の問題点と近未来展望」<br>倉橋浩樹先生<藤田保健衛生大学総合医科学研究所分子遺伝学研究部門 教授><br>座長:河野康志先生<大分大学医学部産科婦人科学講座 准教授><br>総合討論座長:斎藤仲道先生<社会医療法人天神会新古賀クリニック 顧問> |
| 6. 15 | 日本アンドロロジー学会第37回学術大会(兵庫) 参加<神田、熊迫、院長><br>座長:一般演題「不妊症・ART ②」(院長)<br>発表:「精子のメチル化異常と流産組織のメチル化異常の関係」(神田晶子)<br>「詳細な精子形態評価に着目した体外受精の受精予測とレスキューICSIの有用性についての検討」(熊迫陽子)  |
| 6. 17 | JISART 施設認定審査 審査員(稗田)  |
| 6. 19 | 第11回 PGT-A に関する小委員会(東京) 参加<院長>   |
| 6. 22 | 日本受精着床学会 平成30年度 第1回 常務理事会(東京) 参加<院長>   |
| 6. 23 | 第250回 体外受精教室 参加者76名<br>参加<後藤彩、平田、越名、神田、後藤香、糸永、秦、吉良、渡邊、足立、松元、稗田>  |
| 6. 23 | 日本生殖心理学会 2018年度(第12期) 生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<坂本>   |

## 行事一覧

|      |  |
|------|--|
| 6.24 | 第6回 大分性教育セミナー「大切にしよう僕と私の性と生～ネット世代に向けて～」(トキハ会館)<br>参加<後藤彩、瀬戸口、安部、油野、平田、川内、青木、濱、大城、越名、後藤厚、橘、小池、神田、後藤香、糸永、土谷、秦、吉良、戸高、足立、手島、松土、越光、後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長><br>講演1：「セクシャル・デバイス・ネットワーク(sexual device network)～ネット・スマホのリスク～」<br>佐々木玄先生<児童養護施設エス・オー・エスこどもの村 自立支援コーディネーター><br>座長：貞永明美先生<貞永産婦人科医院 院長><br>講演2：「子どもたちの性と生を豊かに育む～性教育における大人の課題と子どもへ伝えたい事～」<br>中井良次先生<児童養護施設迦陵園 統括主任><br>座長：宮川勇生先生<大分大学 名誉教授> |
| 6.26 | 第126回 大分県周産期研究会(大分)<br>参加<瀬戸口、安部、油野、平田、青木、濱、大城、越名、後藤厚、橘、神田、城戸、長木、熊迫、大津、糸永、土谷、秦、吉良、宮田、渡邊、北田、坂本、松元、手島、松土、越光、稗田、河邊、院長><br>発表：「大分県の不妊治療費助成金制度について 患者への聞き取り調査」(越名久美)<br>「がん患者の妊娠性温存治療 当院の経験」(熊迫陽子)  |
| 6.26 | 第15回 大分県母性衛生学会学術集会 第1回実行委員会(大分) 参加<後藤裕>  |
| 6.29 | 平成30年度 日本卵子学会 第2回 理事会、定時総会(東京) 参加<院長>  |
| 6.30 | 黄体補充薬の患者使用感に関する座談会(大阪) 参加<越光>  |
| 7. 1 | 職員旅行(熊本2班) 参加<矢野、大津、糸永、戸高、松元>  |
| 7. 2 | 34th Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology (Barcelona)<br>参加<熊迫、後藤裕、事務長、院長>  |
| 7. 4 | 大分県栄養士会主催 野菜ソムリエの野菜料理教室(大分) 参加<矢野>   |
| 7. 7 | 大分県栄養士会主催 平成30年度 生涯教育研修会(大分) 参加<油野>  |
| 7.10 | 院内感染研修：HIV 感染症について(担当：看護部)   |
| 7.11 | AMED 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 苛原班 平成30年度 班会議(東京) 参加<院長>  |
| 7.13 | 第240回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<甲斐、河邊>  |
| 7.14 | 第112回 新患教室 参加者59名 参加<瀬戸口、平田、川内、濱、小池、秦、吉良、糸永、渡邊、松土、稗田>  |
| 7.21 | 第72回 ガーネットサークル OG1名、参加者4名  |
| 7.21 | 日本生殖心理学会 2018年度(第12期) 生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<坂本>   |
| 7.22 | 大分県栄養士会主催 平成30年度 生涯教育研修会(大分) 参加<油野>  |
| 7.25 | 日本受精着床学会 平成30年度 常務理事会(千葉) 参加<院長>   |
| 7.26 | 第36回 日本受精着床学会総会・学術講演会(千葉) 参加<青木、後藤香、長木、大津、越光、院長><br>座長：特別講演2「生殖医療における遺伝カウンセリング」(院長)<br>一般口演15「着床前診断」(大津英子)<br>ランチョンセミナー1-2：「ヒト胚の動的変化時間と染色体数的異常(Aneuploid embryos)の関係」(院長)<br>発表：「大分県の不妊治療費助成金制度について 患者への聞き取り調査」(青木桜)<br>「精子正常形態率が胚発育タイムラプス所見へ及ぼす影響」(後藤香里)<br>「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」(長木美幸)<br>「4種のプログステロン腫剤を使用した患者への調査」(越光直子)   |
| 7.27 | 日本受精着床学会 平成30年度 評議員会(千葉) 参加<院長>  |
| 7.28 | 第251回 体外受精教室 参加者73名<br>参加<瀬戸口、平田、青木、神田、後藤香、糸永、秦、吉良、渡邊、宮田、坂本、稗田>  |
| 8. 2 | 第58回 日本産科婦人科内視鏡学会(島根) 参加<院長>   |
| 8. 7 | 林克彦先生講演会(福岡) 参加<小池、神田、院長>  |
| 8.11 | 第113回 新患教室 参加者45名 参加<瀬戸口、平田、川内、濱、城戸、糸永、宮田、越光、稗田>   |
| 8.18 | 第252回 体外受精教室 参加者36名 参加<後藤彩、平田、濱、神田、後藤香、糸永、秦、吉良、宮田、手島、稗田>   |

## 行事一覧

|       |  |
|-------|--|
| 8.21  | 院内全体研修：里親制度の説明（担当：心理専門相談室）   |
| 8.25  | 第73回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座（トキハ会館） 参加者44名<br>講師〈越名（受付）、川村（看護部）、稗田（臨床心理士）、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック緒方俊一先生〉 参加〈後藤彩、瀬戸口、平田、越名、橘、糸永、土谷、吉良、川村、後藤裕、稗田〉   |
| 8.25  | 第25回 臨床細胞遺伝学セミナー（東京） 参加〈城戸、大津〉   |
| 8.25  | 日本生殖心理学会 2018年度（第12期）生殖医療相談士養成講座（東京） 参加〈坂本〉  |
| 8.26  | 日本生殖医学会 2018（平成30）年度 第1回 生殖医療従事者講習会（大阪） 参加〈甲斐、院長〉  |
| 8.30  | 大分県栄養士会主催 平成30年度 地区別研修会（別府） 参加〈油野〉   |
| 9. 1  | 第1回 第12期オリーブの会 参加者3名   |
| 9. 1  | 第64回 JISART 理事会（東京） 参加〈院長〉   |
| 9. 1  | 平成30年度 日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会（東京） 参加〈河邊〉  |
| 9. 5  | 大分県栄養士会主催 野菜ソムリエの野菜料理教室（大分） 参加〈矢野〉   |
| 9. 6  | 第63回 日本生殖医学会学術講演会・総会（北海道→北海道胆振東部地震により中止となり、WEB開催へ）<br>参加〈青木、神田、熊迫、越光、河邊、院長〉<br>ランチョンセミナー2：「子宮内膜症性不妊患者の取り扱い：当院の試み」（院長）<br>発表：「大分県の不妊治療費助成金制度について 患者への聞き取り調査」（青木桜）<br>「流産組織のメチル化異常と精子のメチル化異常、および卵黄嚢の有無との関係」（神田晶子）<br>「シングルステップメディウムを用いたヒト胚のアミノ酸代謝の検討」（熊迫陽子）<br>「4種のプログステロン酵剤を使用した患者への調査」（越光直子） |
| 9. 8  | 第253回 体外受精教室 参加者58名 参加〈瀬戸口、平田、越名、小池、神田、後藤香、糸永、吉良、宮田、戸高〉  |
| 9. 9  | 第16回 日本生殖看護学会学術集会（福岡） 参加〈手島、川村、院長〉<br>座長：「一般演題（口演）」（川村智恵）<br>講演：ランチョンセミナー「生殖医療医が看護師に希望すること知っておいて欲しいこと」（院長）   |
| 9.10  | 株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』冬号（Vol.40）取材   |
| 9.11  | 第229回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院   |
| 9.15  | 第114回 新患教室 参加者68名 参加〈後藤彩、平田、川内、濱、大津、糸永、宮田、足立、稗田〉   |
| 9.18  | 安全管理研修：ラボ業務の中での安全管理について（担当：研究室・培養室）  |
| 9.28  | 第241回 大分市医師会産婦人科臨床検討会（大分） 参加〈河邊、院長〉  |
| 9.29  | 第25回 出生前診断研究会幹事会（長崎） 参加〈院長〉  |
| 9.29  | 第25回 出生前診断研究会学術集会（長崎） 参加〈院長〉   |
| 9.29  | 大分県栄養士会主催 平成30年度 生涯教育研修会（大分） 参加〈油野〉  |
| 10. 1 | 新職員 関洋美（受付）  |
| 10. 3 | 福岡臨床遺伝研究会（福岡） 参加〈院長〉   |
| 10. 8 | American Society for Reproductive Medicine 2018 Scientific Congress & Expo (Denver)<br>参加〈足立、松元、事務長、院長〉<br>発表：「The new embryo culture medium based on the amino acid concentration of human oviductal fluid increase the embryo development ability : prospective randomized trial」（院長）      |
| 10.11 | 日本人類遺伝学会 第63回大会（神奈川） 参加〈城戸、大津、院長〉  |
| 10.12 | 日本卵子学会 平成30年度 第3回 理事会（東京） 参加〈院長〉   |
| 10.13 | 第115回 新患教室 参加者42名 参加〈後藤彩、関、平田、青木、長木、糸永、吉良、戸高、坂本、松土〉  |
| 10.13 | 第2回 第12期オリーブの会 参加者5名   |
| 10.14 | JISART 施設認定審査 オブザーバー（松土）   |

## 行事一覧

|       |  |
|-------|--|
| 10.14 | 第15回 大分県母性衛生学会役員会(大分) 参加〈後藤裕、院長〉   |
| 10.14 | 第15回 大分県母性衛生学会総会・学術集会(大分)<br>参加〈青木、越名、土谷、吉良、北田、坂本、川村、越光、後藤裕、稗田、河邊、院長〉<br>発表:「大分県の不妊治療費助成金制度について 患者への聞き取り調査」(越名久美)  |
| 10.16 | 第230回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院   |
| 10.16 | 院内全体研修:心肺蘇生法(担当:看護部)   |
| 10.20 | 第254回 体外受精教室 参加者70名 参加〈後藤彩、平田、濱、神田、後藤香、糸永、吉良、宮田、北田、稗田〉   |
| 10.20 | 日本生殖心理学会2018年度(第12期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加〈坂本〉   |
| 10.23 | 第127回 大分県周産期研究会(大分) 参加〈河邊〉   |
| 10.26 | 第48回 大分市医師会産婦人科—内分泌・不妊・代謝—懇話会(大分)<br>参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、矢野、平田、青木、越名、後藤厚、橘、小池、城戸、後藤香、長木、熊迫、大津、糸永、土谷、吉良、宮田、戸高、北田、坂本、足立、松元、手島、松土、越光、後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長〉<br>「妊娠能温存手術と生殖補助医療～妊娠能に配慮した術前薬物療法～」<br>(東邦大学医学部産科婦人科学講座 教授 片桐由起子先生) |
| 10.30 | 第12回 PGT-Aに関する小委員会(東京) 参加〈院長〉  |
| 10.31 | バイエル薬品株式会社勉強会(大分) 参加〈院長〉<br>講演:「不妊症の現状」(院長)  |
| 11. 1 | 日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会 臨床遺伝専門医認定(院長)   |
| 11. 1 | 新職員 惠藤玲子(看護部)、花崎真衣(看護部)  |
| 11. 3 | JISART フォローアップ部会相談部門会 第6回 当事者交流会(東京) 参加〈院長〉  |
| 11. 6 | 院内全体研修:避難訓練(担当:情報処理室・厨房・心理専門相談室)   |
| 11. 7 | 福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加〈院長〉   |
| 11. 7 | 大分県栄養士会主催 野菜ソムリエの野菜料理教室(大分) 参加〈矢野〉   |
| 11. 8 | 平成30年度 香川生殖内分泌研究会(香川) 参加〈院長〉<br>講演:「生殖医療われわれの経験～胚培養、着床前診断、ARTで産まれた児の健康について～」(院長)   |
| 11.10 | 第74回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(トキハ会館) 参加者66名<br>講師〈青木(受付)、後藤裕(看護部)、稗田(臨床心理士)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生〉 参加〈後藤彩、瀬戸口、平田、青木、橘、糸永、土谷、吉良、戸高、坂本、後藤裕、稗田〉  |
| 11.11 | JISART 施設認定審査  |
| 11.13 | 第231回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院   |
| 11.15 | 第49回 大分市医師会医学会(大分)<br>参加〈瀬戸口、安部、油野、関、平田、青木、濱、越名、橘、小池、神田、長木、熊迫、大津、糸永、土谷、惠藤、吉良、渡邊、北田、坂本、足立、手島、松土、越光、後藤裕、河邊、院長〉<br>発表:「大分県の不妊治療費助成金制度について 患者への聞き取り調査」(越名久美)<br>「がん患者の妊娠性温存治療 当院の経験」(小池恵)                            |
| 11.17 | 第255回 体外受精教室 参加者40名 参加〈瀬戸口、関、平田、青木、神田、後藤香、糸永、惠藤、吉良、松元、稗田〉  |
| 11.17 | 第73回 ガーネットサークル OG1名、参加者4名  |
| 11.17 | 大分県栄養士会主催 平成30年度 生涯教育研修会(大分) 参加〈油野〉  |
| 11.18 | JISART 施設認定審査 審査員〈松土〉  |
| 11.24 | 第3回 第12期オリーブの会 参加者4名   |
| 11.24 | 第65回 JISART 理事会(鹿児島) 参加〈院長〉  |

## 行事一覧

|       |  |
|-------|--|
| 11.24 | 第33回 日本生殖免疫学会総会・学術集会(東京) 参加〈後藤香〉<br>発表:「Epidermal Growth Factor Receptor を介した脱落膜化子宮内膜間質細胞の細胞機能調節」<br>(後藤香里)              |
| 11.26 | 第6回 里親・養子縁組の説明会～治療を経て里親・縁組をされた方のお話～  |
| 11.27 | マネジメントレビュー   |
| 11.27 | 第242回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加〈河邊〉   |
| 11.30 | 第243回 大分市医師会産婦人科臨床検討会学術講演会(大分)<br>参加〈安部、油野、矢野、瀬、越名、神田、後藤香、渡邊、越光、後藤裕、甲斐、河邊、院長〉<br>座長:特別講演(院長)                             |
| 12. 1 | 第116回 新患教室 参加者64名 参加〈後藤彩、関、青木、小池、糸永、惠藤、吉良、宮田、渡邊、戸高、稗田〉   |
| 12. 1 | 平成30年度 日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会(東京) 参加〈河邊〉  |
| 12. 5 | 福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加〈院長〉   |
| 12. 8 | 日本生殖心理学会 2018年度(第12期) 生殖医療相談士養成講座(東京) 参加〈坂本〉   |
| 12. 9 | 日本生殖医学会 2018(平成30)年度 第3回 生殖医療従事者講習会(東京) 参加〈甲斐、院長〉  |
| 12.10 | 株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』春号(Vol.41)取材   |
| 12.11 | 院内感染研修:インフルエンザとノロウイルス(担当:看護部)  |
| 12.11 | 第232回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院   |
| 12.14 | 第4回 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会(東京) 参加〈院長〉  |
| 12.14 | 第23回 日本生殖内分泌学会学術集会(福岡) 参加〈後藤香〉<br>発表:「子宮内膜間質細胞の脱落膜化における Epidermal Growth Factor Receptor を<br>介した細胞機能調節」(後藤香里) 【学術奨励賞受賞】 |
| 12.15 | 遺伝カウンセリング・ロールプレイ研修会(東京) 参加〈院長〉   |
| 12.16 | 第2回 JAPCO会議(東京) 参加〈城戸、大津、院長〉   |
| 12.16 | 第13回 PGT-Aに関する小委員会(東京) 参加〈院長〉  |
| 12.16 | 日本産科婦人科学会倫理委員会 公開シンポジウム<br>「着床前診断—PGT-A 特別臨床研究の概要と今後の展望—」(東京) 参加〈城戸、大津、院長〉   |
| 12.20 | 忘年会  |
| 12.22 | クリスマス会   |
| 12.23 | 第256回 体外受精教室 参加者96名 参加〈後藤彩、関、越名、神田、後藤香、糸永、惠藤、吉良、松土、稗田〉   |

# 論文一覧

---

- 「大学生と初診患者における生殖知識と健康意識についての比較と不妊講義の学習効果」(稗田真由美)  
日本生殖心理学会誌4(1) : 6-15, 2018【優秀論文賞受賞】
- 「ヒト初期胚における多核割球の形成要因と妊娠性に関する検討」(大津英子)  
日本受精着床学会雑誌 35(1) : 78-82, 2018
- 「Strict Criteria 精子形態評価に基づく conventional IVF と  
受精障害に対する rescue ICSI の臨床的有用性の検討」(熊迫陽子)  
日本受精着床学会雑誌 35(1) : 83-87, 2018
- 「Prediction of the in vitro developmental competence of early-cleavage-stage human embryos  
with time-lapse imaging and oxygen consumption rate measurement」(後藤香里)  
Reproductive Medicine and Biology 17(3) : 289-296, 2018
- 「生殖補助医療(ART)における流産絨毛のメチル化異常と夫精子のメチル化異常の関係」(神田晶子)  
日本受精着床学会雑誌 35(1) : 116-120, 2018
- 「Effects of cyclophosphamide administration on the in vitro fertilization of mice」(小池恵)  
Reproductive Medicine and Biology 17(3) : 262-267, 2018

# セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

## セント・ルカセミナー

開催頻度：1回／1年

1993年から、セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、国内外から著名な先生方を講師にお招きし、開催している。

内容は、生殖補助医療の最新技術の講演や胚培養士の話題、公認心理師やピアカウンセラーによる心のお話等多岐に渡り、医師だけでなく、生殖補助医療に携わる全てのスタッフにとって興味深いプログラムになるよう工夫している。講師との距離が非常に近いため、質問もしやすく、質疑応答の時間や総合討論の時間など、毎回熱いディスカッションが行われる。休憩時間にも熱心に質問する姿があちこちで見られ、非常に有意義なセミナーである。

セミナー開催にあたっては、企画・立案・運営までを全て当院スタッフで行っている。

## がん・生殖医療フォーラム大分

開催頻度：不定期

がん治療前の卵子・精子・受精卵の保存（妊娠性温存）はまだ十分には周知されていない。大分県内の全てのがん患者が、「治療後に赤ちゃんを望める」という希望を持ちながらがん治療を受けられるようにするために、大分県内の広範囲にわたるがん治療専門医と連携をとり、フォーラムを行っている。このフォーラムの発足（2018年1月）の前には2014年9月に「おおいた乳がん生殖医療ネットワーク」を設立した経緯がある。

## 大分性教育セミナー

開催頻度：1回／1年

不妊症患者の初診時の年齢の上昇に伴い、不妊知識調査を行ったところ、患者が「性」に対し、「避妊」について学ぶ機会はあっても、「不妊」や「生殖年齢」についてなど、大切な情報が不足していることが分かった。また、昨今の若者を取り巻く社会環境の変化に伴い、「性」に関する社会の状況、個々の考え方や概念など間違った性知識や危うい性行動などが広がっている。そこで、2013年より、当院の活動の一つとして、児童養護施設別府平和園の子どもたちに対する性教育に加え、大分県内的一般の方や教職員の方々に対しての性教育セミナーを開催している。

## 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

2018年4回開催 参加のべ人数276名

受診中の患者以外にも広く不妊治療を知つもらう目的で、3ヵ月に1回（年4回）外部の会場で、参加者の方がリラックスして聞いていただけるよう、コーヒーとケーキを用意し開催している。

院長が詳しく説明した後、泌尿器科（協力病院）の医師による男性不妊の治療についての話、公認心理師による心のお話、看護師による診療やサポート体制、受付スタッフによる助成金等の話をしている。また、OG（当院で治療後赤ちゃんを授かり出産した方）の話もあり、OG自身の治療歴や、治療中の悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者の立場からの話をしてもらえるため、毎回好評である。

## 新患教室

2018年9回開催 参加のべ人数518名

当院の多目的室にて、初診時の検査から体外受精までの一連の流れを、院長が2～3時間にわたり詳しく述べて説明した後、看護師から診療やサポート体制についての説明を行っている。また、培養室、受付、公認心理師からの話も行っている。早い時期に夫婦で参加するため、夫婦二人で取り組む意識が強くなり、その後の治療に対する理解にも役立っている。

### 体外受精教室

2018年12回開催 参加のべ人数701名

初めて体外受精を受ける患者向けに、治療の過程やスケジュール、体外受精前後の体の変化など、院長が3～4時間にわたってわかりやすく説明し、その後、看護師、培養室、受付、公認心理師から説明を行っている。

「受精は神秘的なもので、それに関わる体外受精はとても繊細な技術で病院側の誠意と努力をとても強く感じました」「不安に思っていたことが軽減され、不安なく体外受精に進むことができそうです」「最後の先生の夫婦仲良くが原点という言葉には胸をうたれました」など、患者からの率直な感想も聞かれる。

教室はご夫婦での参加としているため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考えることができ、その後の治療のステップアップにも役立っている。

### 新患オリエンテーション

初診時診察終了後に、生殖医療相談士や不妊治療に対する教育を受けたスタッフが、写真や図を使い、患者への病状説明や、今後の治療の進み方などの説明・相談を行っている。患者の質問や不安に対して個別に対応も行っている。

### 心理専門相談室

予約制

公認心理師が治療中の気分の落ち込み、夫婦関係、日常生活のストレス、また今後の治療への迷いなどのカウンセリングを行っている。一緒に考え、少しでも安心して治療が受けられるようなサポートを心がけている。

### ガーネットサークル

2018年3回開催 参加のべ人数14名

当院で治療後、出産へと至った方にお願いして、現在治療中の患者との交流の場を設けている。その都度テーマを変え、対象を絞り、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるように心がけている。

参加者より、「治療に前向きになれた」との声も聞かれ、経験者の話を聞くことにより、患者の不安を取り除き、悩んでいるのは自分ひとりではないと再認識できる貴重な会となっている。

### オリーブの会(第1～12期)

2018年3回開催(第11期) 参加総数13名

2018年3回開催(第12期) 参加総数12名

40歳以上の患者の孤独感や不安を軽減させるため、また治療終結への思いを共有できる時間と場を提供することを目的として開催している。

同じ年代の同じメンバーに、看護師を交え、治療のことや日頃感じていることなど、お茶を飲みながら、リラックスした自由な話し合いの場となっている。

### 治療の終結を決断した

### 元患者さんのお話が聞ける会

開催頻度：1回／1年

不妊治療の終結を決断し、ご夫婦だけの生活を選択された方に、現在治療中の患者に対して、治療当時の思いや、治療終結に至るまでの決断の経緯、現在の心境などのお話ををしていただいている。

ご夫婦で参加される方もおり、質問や意見交換も活発に行われる。治療中の患者にとって今後の治療や、これから二人の生活を考えることができる貴重な時間となっている。

### ウェイトサークル

開催頻度：不定期

肥満はホルモンバランスに影響を及ぼしたり、妊娠後や出産時にもリスクを伴う恐れがあると言われているため、BMI25以上の方を対象に、体重指導を行っている。

### 院長相談

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

治療内容・治療計画・治療終結に向けての相談など、治療をする上で迷ったり悩んだりする時、普段の診療では聞きにくいことを、他の患者を気にすることなくゆっくりと相談することができる。

### なんでも相談（看護部）

不妊治療を行う上での不安・ストレスや悩み、治療についての質問、体外受精などのステップアップに関するアドバイスなど、多岐にわたる相談を受ける場を設けている。（予約制）

オリエンテーションルームで個別に相談ができるため、他者に話を聞かれる心配をせず、ゆったりと相談することができる。希望があればARTに関する相談や治療の内容についての説明を行っている。

### なんでも相談（培養室）

（胚培養士資格保持者による相談）

月曜日～土曜日の11:00～12:00（予約制）

体外受精における不安や疑問等の相談を随時受け付けている。

### その他

#### 外来相談係（看護部）

医師の診察時に聞けなかった質問や、細かな訴えなどを傾聴し、説明・相談を行っている。また患者の電話での問い合わせにも対応している。

### 手術前説明（看護部）

手術を予定している患者に、手術前の問診・各種検査（胸写・心電図・肺機能検査・血液検査）を行い、バスを用いて入院から退院までのスケジュールの説明を行う。

### 手術前説明（院長）

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

手術予定の1週間前までに夫婦で来院していただき、麻酔方法・手術内容について説明を行う。

### 手術後説明（院長）

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

夫婦で来院していただき、手術時の映像（動画）を見ながら結果説明・今後の治療方針・治療計画の説明を行う。

### ARTオリエンテーション（培養室）

（胚培養士資格保持者による説明）

体外受精初回時に体外受精の方法、流れについて説明を行う。

### ARTに関する説明（培養室）

（胚培養士資格保持者による説明）

体外受精胚移植または融解胚移植前、医師による説明の後に、補足説明を行う。

全胚凍結した場合、医師による説明の後に、補足説明を行う。

体外受精後、移植または全胚凍結ができなかつた場合に医師による説明の後に、補足説明を行う。

### ART結果説明（看護部）

院長よりARTの結果についての説明のあと、今後の治療の流れについての説明を行う。

### 全体朝ミーティング

毎朝、診療開始前に外来にて、職員全員で朝ミーティングを行っている。受付より当日の診察内容毎の予約患者数、研究室・培養室より当日の採卵・胚移植・精液検査の予定、心理専門相談室より当日の相談の予定、看護部より当日の手術予定について報告している。職員全員が参加し、情報を共有することにより、全員が一日の診療の流れを把握することに役立ち、士気を高めることに繋がっている。

### 院内研修・ミーティング

毎週火曜日の午後、職員全員が参加して行っている。研究室・培養室より、研究結果の報告、海外論文詳読、各部署より報告事項や「ヒヤリ・ハット」を報告し、今後のために協議している。また、その週に治療を受ける患者について治療方針を話し合うなど、3時間程のミーティングを行っている。このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者のケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、全員が発言する機会を作っている。

### 培養室朝ミーティング

毎朝、培養室にて、当日の採卵予定患者の検査結果、胚移植予定者、培養中の胚の観察結果報告、当日の業務の流れの確認を医師を交えて行っている。

### 培養室ミーティング

1ヶ月に2回、培養室の職員全員で、日常業務の問題点や改善点、各々の研究テーマについての話し合い、学会報告、基礎知識に関する勉強会を行っている。

## スタッフ配置

|              |  |
|--------------|--|
| 院 長          | 宇津宮隆史  |
| 医 局          | 伊東裕子、古川雄一、甲斐由布子  |
| 研究室・培養室      | 大津英子、熊迫陽子、長木美幸、後藤香里、城戸京子、神田晶子、小池恵、小林あやね、後藤厚子   |
| 看護部          | 後藤裕子、越光直子、松土留美、川村智恵、手島しおり、松元恵利子、足立直美、坂本順子、亀井里砂、北田奈津枝、戸高里美、渡邊美智代、宮田美紀、吉良美咲、甲斐忍、大津仁美、芳山愛実、新野ア莉紗、渡辺千枝 |
| 心理専門相談室(非常勤) | 上野桂子、雲井小夜子   |
| 総務部          | 宇津宮富美子   |
| 受付           | 越名久美、濱奈津美、青木桜、川内玲菜、平田春菜、関洋美  |
| 情報処理室        | 安部里美、瀬戸口美和、後藤彩美  |
| 厨房           | 矢野千恵美、油野亞由美  |

## 有資格者

|                                |                              |
|--------------------------------|------------------------------|
| 日本産科婦人科学会産婦人科専門医               | 宇津宮隆史、伊東裕子、古川雄一、甲斐由布子        |
| 日本産科婦人科学会産婦人科指導医               | 宇津宮隆史                        |
| 日本生殖医学会生殖医療専門医                 | 宇津宮隆史、伊東裕子、甲斐由布子             |
| 日本内視鏡外科学会技術認定医                 | 宇津宮隆史                        |
| 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医           | 宇津宮隆史                        |
| 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医                | 宇津宮隆史                        |
| 日本卵子学会および日本生殖医学会認定生殖補助医療管理胚培養士 | 大津英子、熊迫陽子、後藤香里               |
| 日本卵子学会認定生殖補助医療胚培養士             | 長木美幸、城戸京子、神田晶子、小池恵           |
| 日本生殖心理学会認定生殖心理カウンセラー           | 上野桂子                         |
| 日本生殖心理学会認定生殖医療相談士              | 後藤裕子、手島しおり、坂本順子、城戸京子、小池恵、青木桜 |
| 日本人類遺伝学会臨床細胞遺伝学認定士             | 城戸京子                         |
| 日本看護協会不妊症看護認定看護師               | 手島しおり                        |

# 病院概要

名 称

医療法人セント・ルカ  
セント・ルカ産婦人科  
セント・ルカ生殖医療研究所

開設年月日

1992年6月3日

住 所

〒870-0823 大分県大分市東大道1丁目4番5号  
TEL 097-547-1234  
FAX 097-547-1221  
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp  
<http://www.st-luke.jp/>

許可病床数

13床

職 員 数

総数46名

|            |     |       |    |
|------------|-----|-------|----|
| 常勤医        | 4名  | 総務部   | 1名 |
| 公認心理師(非常勤) | 2名  | 受付    | 6名 |
| 研究室・培養室    | 4名  | 情報処理室 | 3名 |
| 検査室・培養室    | 5名  | 調理士   | 1名 |
| 看護師        | 14名 | 栄養士   | 1名 |
| 准看護師       | 5名  |       |    |

診療時間  
(受付予約制)

月・水・金： 8:30～11:30  
13:30～15:30  
17:00～18:30  
火・土： 8:30～11:30  
(祝日を除く)

〈本年報の集計も SarahBase を用いました〉

# *St.Luke* 2018年年報

---

2019年6月 発行

発 行：医療法人セント・ルカ  
セント・ルカ産婦人科  
セント・ルカ生殖医療研究所

編 集：宇津宮 隆史

〒870-0823  
大分県大分市東大道1丁目4番5号  
TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221  
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp  
<http://www.st-luke.jp/>

